

令和5年度入学生
(2023年度)

教養モジュール
ガイドブック



Planetary Health,
nagasaki university



目 次

1. 長崎大学におけるモジュールの考え方	P. 1
2. 教養モジュールのカテゴリーについて	P. 1
3. 教養モジュールの履修について	P. 2
教養モジュールの履修の注意点	P. 2
教養モジュールの履修登録スケジュール	P. 5
4. モジュール Web 申請システム利用方法	P. 6
5. シラバス検索方法	P. 7
6. 教養モジュールテーマ・教養モジュール科目案内目次	P. 8
教養モジュール科目案内	P. 10

<グループ A/a>

対象学部：多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部

<教養モジュール I 科目>		<教養モジュール II 科目>	
人文社会科学からの学び	P. 10	人文社会科学からの学び	P. 25
生命医科学からの学び	P. 17	生命医科学からの学び	P. 32
自然科学からの学び	P. 21	自然科学からの学び	P. 36

<グループ B/b>

対象学部：医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部

<教養モジュール I 科目>		<教養モジュール II 科目>	
人文社会科学からの学び	P. 40	人文社会科学からの学び	P. 56
生命医科学からの学び	P. 47	生命医科学からの学び	P. 63
自然科学からの学び	P. 52	自然科学からの学び	P. 68

1. 長崎大学におけるモジュールの考え方

従来、学校教育は教員や学校サイドから考案され実施することが一般的でした。その考え方に對して、人間重視、そして、個重視の観点から、学ぶ者、つまり学生の立場に立った教育が必要であるというモジュールの考え方が提唱されるようになりました。長崎大学では後者の観点からの教育を重視しようと考えています。

特に教養教育においては、学生一人一人の興味・関心を重視した学びが必要と考えたのです。

そこで現代社会の課題となっているテーマを取り上げ、それぞれのテーマを核として社会から要求されている諸能力を育成するために集めた科目群をモジュールと呼び、教養教育を編成することにしました。ここでは学生参加型のアクティブ・ラーニングが中心となります。

学生の皆さんは、それぞれの興味・関心に従って、3つのカテゴリーの中からモジュールテーマを選び、それに含まれる授業科目に積極的に取り組むことによって、個々の能力を向上させ、学士課程教育の基盤を形成することができます。

2. 教養モジュールのカテゴリーについて

教養モジュールは、次の3つのカテゴリーの中に配置されたモジュールテーマにより構成されています。それぞれのカテゴリーに配置されたモジュールテーマと科目の概要については、本ガイドブックの後半の「教養モジュール科目案内」をご覧ください。

<人文社会科学からの学び>

グローバル化が進み、科学・技術の発展や政治・経済の変化により多種多様な物と情報が溢れるようになった現代社会は、産業や生活環境、所得、紛争、移民、人種などをめぐりさまざまな問題を抱えています。このカテゴリーでは、現在起こっている諸問題の解決や「共に生きる（共生）」ための試みについて人文社会科学の視点から学びます。

<生命医科学からの学び>

命とは何であり、生きるとはどういうことでしょうか。私たちは、この永遠ともいえる問いから目をそらしがちですが、生命の成り立ちや進化を理解し、疾病や障害、薬や医療について知ることは、この問いに向き合うきっかけになります。このカテゴリーでは、生命医科学の視点から、「命」、「生きる」とは何かを科学的に学びます。

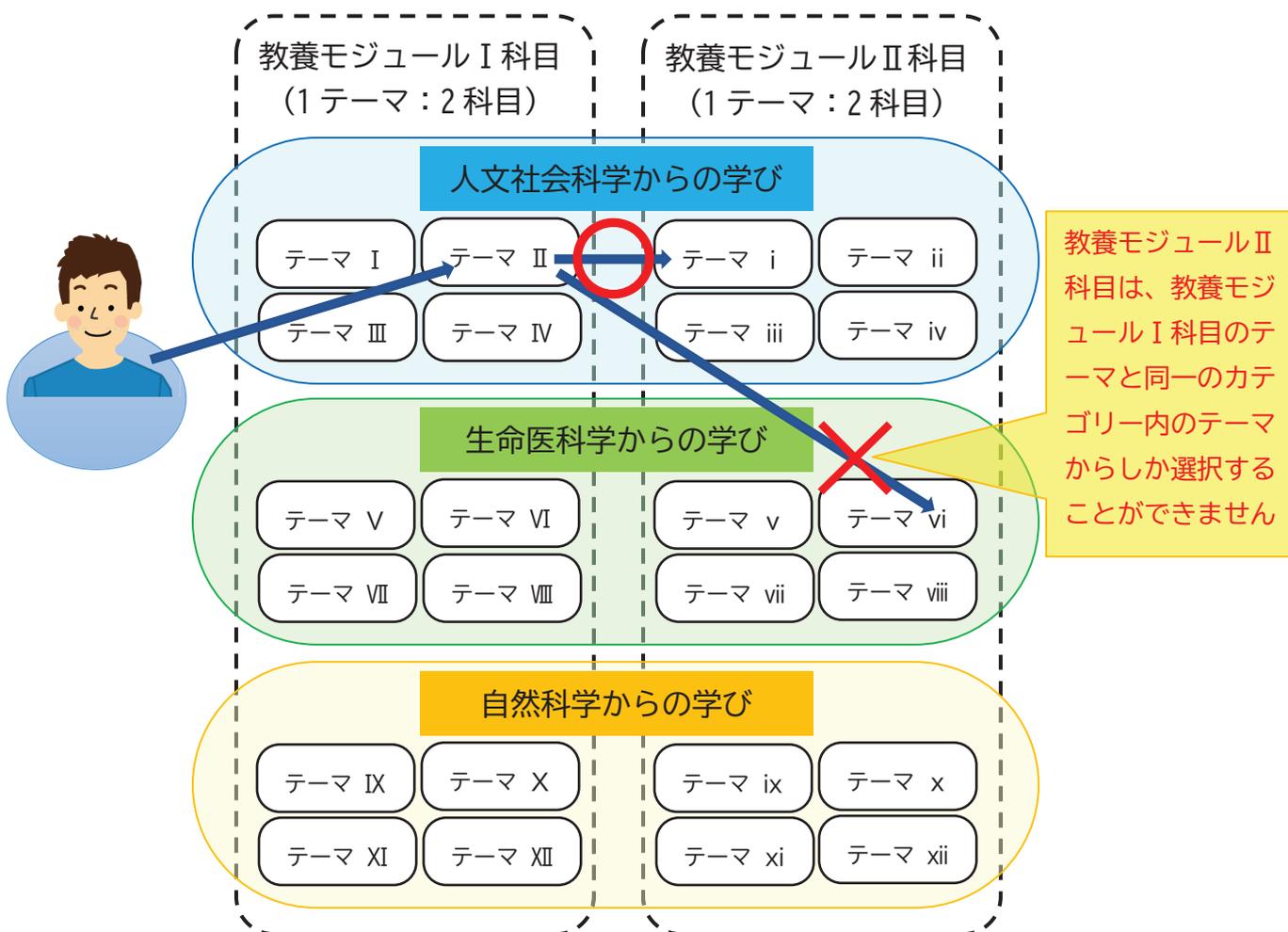
<自然科学からの学び>

私たち 21 世紀市民が目指すのは、人類の持続可能な発展です。世界各地で問題になっている大気汚染や海洋汚染など自然環境の問題はもちろんのこと、私たちを取り巻く社会環境にも目を向けると、産業・科学技術の発展の代償として、実にたくさんの取り組むべき課題が存在します。このカテゴリーでは、身近な問題を自然科学の視点から、将来の持続可能な社会の在り方について学びます。

3. 教養モジュールの履修について

教養モジュールの履修の注意点①

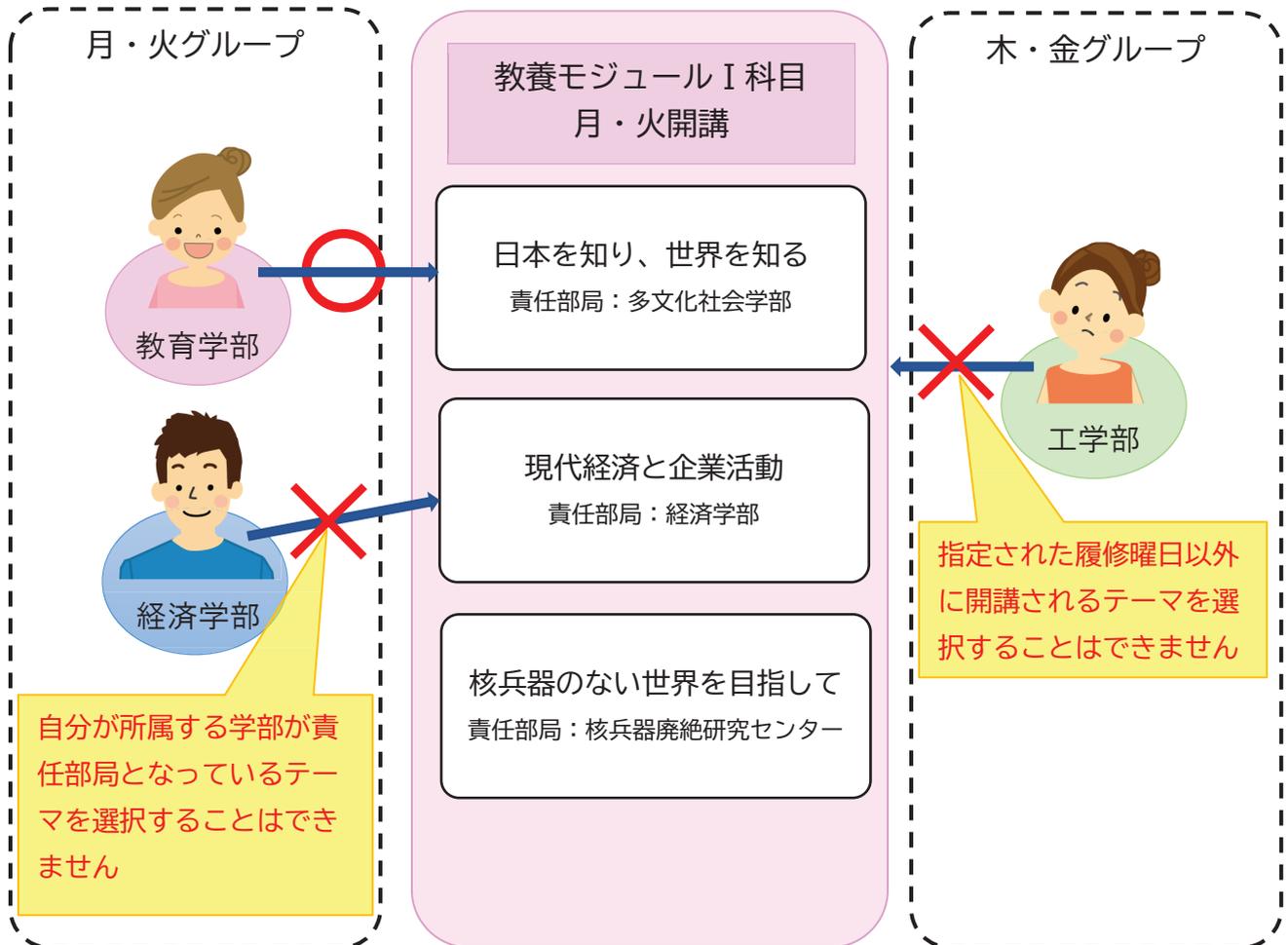
<カテゴリーについて>



1. 教養モジュール科目は、教養モジュール I 科目と教養モジュール II 科目で構成されています。
2. 1 年次前期に、教養モジュールガイドブックやシラバス(授業計画書)を参考に、教養モジュール I 科目のテーマを選択します。1 テーマ 60 名の定員数を設けていますので、申し込みが定員数を超過した場合には、電子抽選が行われます。
3. 1 年次後期に、教養モジュールガイドブックやシラバス(授業計画書)を参考に、教養モジュール II 科目のテーマを選択します。なお、1 年次前期に選択した**教養モジュール I 科目のテーマと同一のカテゴリー内のテーマからしか選択することができません**。1 テーマ 60 名の定員数を設けていますので、申し込みが定員数を超過した場合には、電子抽選が行われます。
4. 教養モジュール I 科目は 1 年生後期、教養モジュール II 科目は 2 年生前期に開講されます。教養モジュール I 科目及び教養モジュール II 科目はともに 2 科目あり、**2 科目どちらも修得する必要があります。**
5. 決定した教養モジュール I 科目及び教養モジュール II 科目のテーマについては、**途中で変更することはできません。**

教養モジュールの履修の注意点②

<テーマについて>



教養モジュール科目のテーマについては、以下のとおり選択できないテーマがあります。

1. 各学部指定された履修曜日以外に開講されるテーマを選択することはできません。

教養モジュール I 科目

月・火：多文化、教育、経済、薬学、水産

木・金：医学科、保健学科、歯学、情報、工学、環境

教養モジュール II 科目：

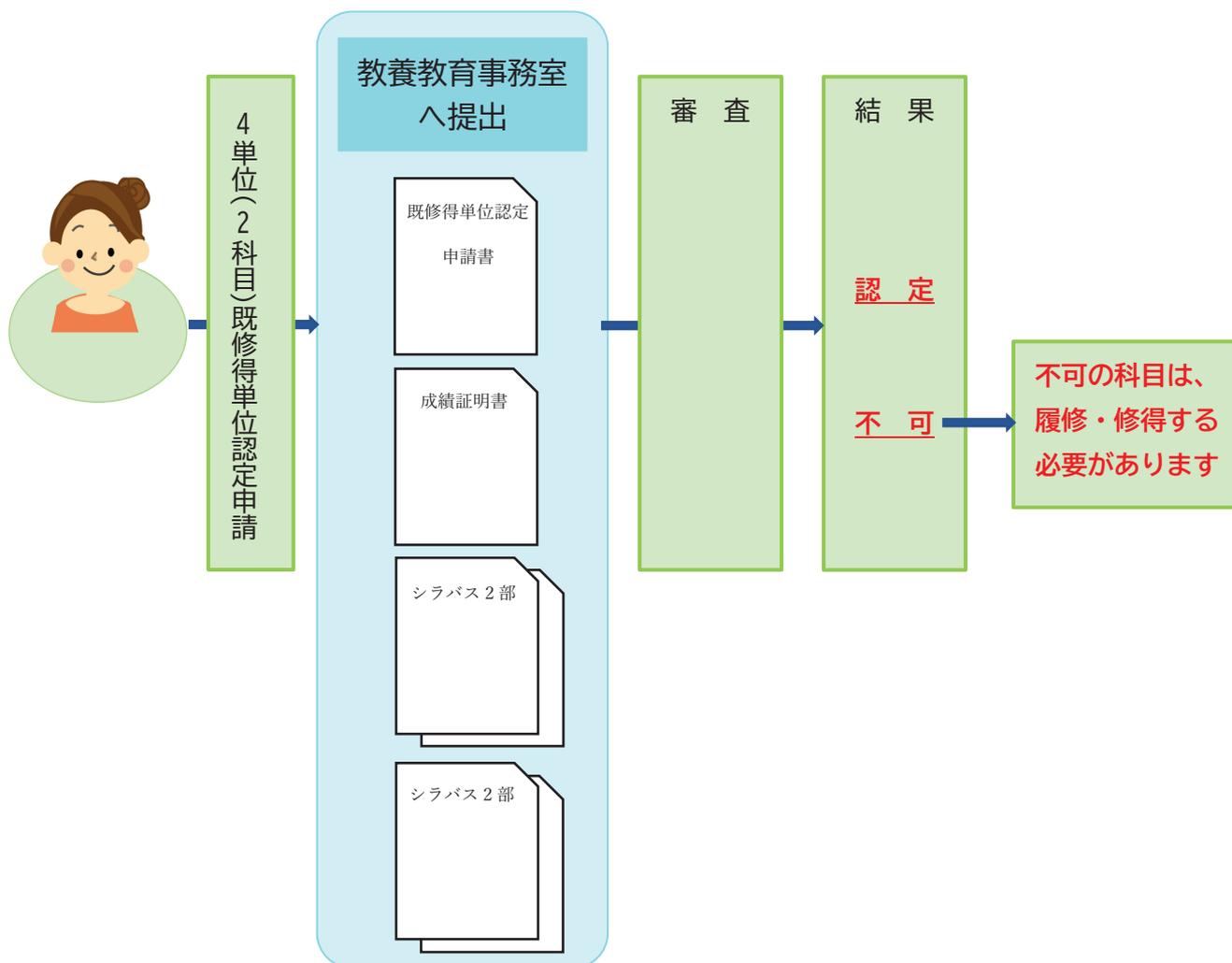
月・火：医学科、保健学科、歯学、情報、工学、環境

木・金：多文化、教育、経済、薬学、水産

2. 自分が所属する学部（医学部にあつては学科）が責任部局となっているテーマを選択することができません。

教養モジュールの履修の注意点③

<入学前既修得単位認定申請について>



教養モジュールⅡ科目では、4単位(2科目)を上限として、入学前の既修得単位をもって、単位認定申請をすることが可能です。

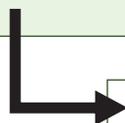
教養モジュールⅡ科目の単位認定申請を希望する場合は、以下に注意してください。

1. 教養モジュールⅠ科目のテーマを選択する際、単位認定申請を希望する教養モジュールⅡ科目が属するカテゴリを選択すること。教養モジュールⅡ科目は、教養モジュールⅠ科目のテーマと同一のカテゴリ内のテーマからしか選択することができません。ただし、テーマの定員数を超過した場合には、電子抽選が行われるため、必ずしも希望どおりになるとは限りません。
2. 申請可能な科目は、決定した教養モジュールⅡ科目のテーマ内の科目のみです。
3. スケジュールは以下のとおりです。
申請期間：令和6年1月下旬頃
結果発表：令和6年3月中旬頃
4. 認定されなかった科目は、履修・修得する必要があります。

教養モジュールの履修登録スケジュール

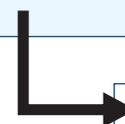
前 期						後 期						
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	① I 科目テーマ Web 申請 ② 結果発表 ③ テーマ変更期間								④ II 科目テーマ Web 申請 ⑤ 結果発表 ⑥ テーマ変更期間			

- ① 5月12日（金）～22日（月） 教養モジュール I 科目テーマ Web 申請を行う（P.6 参照）
- ② 6月19日（月） モジュールテーマ Web 申請システムで結果を確認する
抽選等によりテーマが決定しなかった学生については、調整期間を設けテーマを決定する
- ③ 6月下旬：欠員があったテーマのみを対象として、テーマ変更を認める（詳細については、教養教育掲示板にて確認すること）



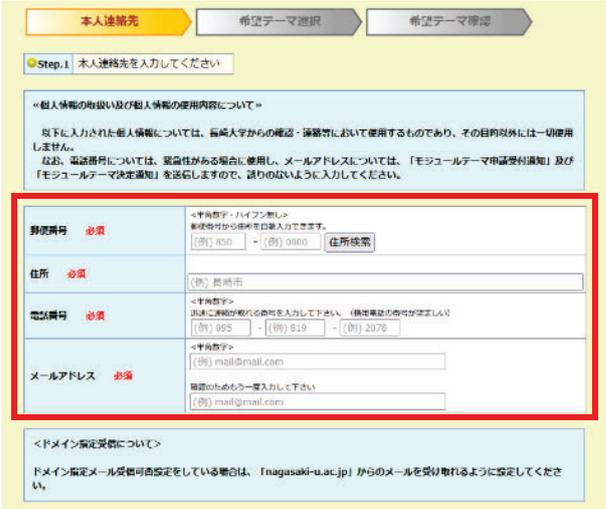
令和 5 年度後期履修登録期間
教養モジュール I 科目は、1 テーマ 2 科目です。2 科目とも履修登録すること！

- ④ 12月1日（金）～12月11日（月） 教養モジュール II 科目テーマ Web 申請（P.6 参照）
- ⑤ 1月15日（月） モジュールテーマ Web 申請システムで結果を確認する
抽選等によりテーマが決定しなかった学生については、調整期間を設けテーマを決定する
- ⑥ 1月下旬：欠員があったテーマのみを対象として、テーマ変更を認める（詳細については、教養教育掲示板にて確認すること）

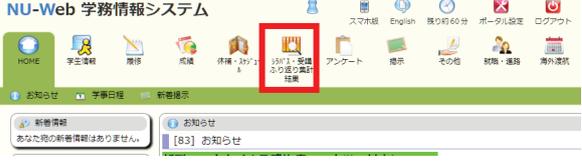


令和 6 年度前期履修登録期間
教養モジュール II 科目は、1 テーマ 2 科目です。2 科目とも履修登録すること！

4. モジュール Web 申請システム利用方法

1		<p>申請期間に、学内 LAN に接続後、「モジュールテーマ Web 申請システム」にアクセス</p> <p>※ 学内無線 LAN(Wi-Fi)接続方法はこちらを参照 ※ 学外からの接続方法(VPN)はこちらを参照</p>
2		<p>「本人連絡先」の入力</p> <p>郵便番号、住所（現住所）、電話番号（携帯電話）、メールアドレスを入力 ※ 個人の連絡先については、長崎大学からの確認・連絡等に使用するの、誤りがないよう入力してください</p>
3		<p>「希望テーマ選択」の入力</p> <p>第3希望までモジュールテーマを選択</p> <p>※ モジュールⅡ科目の場合、すでに選択したモジュールⅠ科目と同じカテゴリーからしか選択できません</p>
4		<p>「希望テーマ」の確認</p> <p>申請の内容を確認し、「申請」をクリック ※ 申請期間内であれば、再度、モジュール WEB 申請システムにログインして、テーマ選択の変更が可能です</p>

5. シラバス検索方法

1		<p>NU-Web 学務情報システムにログインし、「シラバス・受講ふり返り集計結果」をクリック</p>
2		<p>教養モジュールⅠ科目： 年度「2023」 開講所属「教養教育」 授業科目名「テーマ番号」または「科目名」</p> <p>教養モジュールⅡ科目： 年度「2024」 開講所属「教養教育」 授業科目名「テーマ番号」または「科目名」 ※教養モジュールⅡ科目のシラバスは、 11月下旬に閲覧可能</p>
3		<p>参照欄の「和文」または「英文」をクリック</p>

6. 教養モジュールテーマ・教養モジュール科目案内目次

<グループA/a>

対象学部：

多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部

<教養モジュールⅠ科目>

人文社会科学からの学び	23- A1	日本を知り、世界を知る	P. 10
	23- A2	現代経済と企業活動	P. 11
	23- A3	核兵器のない世界を目指して	P. 12
	23- A4	情報社会を考える	P. 13
	23- A5	国際社会を理解するための多様な視点	P. 14
	23- A6	コミュニケーション基礎講座	P. 15
	23- A7	国際開発入門と日本文化史入門（英語開講）	P. 16
生命医科学からの学び	23- A8	生体の機能・障がい・回復の科学	P. 17
	23- A9	ハンディキャップの理解	P. 18
	23- A10	薬と生命科学を理解するための基礎科学	P. 19
	23- A11	暮らしに活かす情報技術	P. 20
自然科学からの学び	23- A12	暮らしの中の科学1	P. 21
	23- A13	環境をめぐる諸問題	P. 22
	23- A14	食の安全と持続的な海洋食料資源の利用	P. 23
	23- A15	環境と人類の持続可能な発展	P. 24

<教養モジュールⅡ科目>

人文社会科学からの学び	23- a1	社会と文化の多様性	P. 25
	23- a2	文化の交流と共生	P. 26
	23- a3	教育と文化	P. 27
	23- a4	教育と社会	P. 28
	23- a5	現代経済と企業活動a	P. 29
	23- a6	現代経済と企業活動b	P. 30
	23- a7	平和と安全保障（英語開講）	P. 31
生命医科学からの学び	23- a8	健やかに生きる	P. 32
	23- a9	社会・環境と生命を考える	P. 33
	23- a10	くすり～過去・現在・未来～	P. 34
	23- a11	病気と薬を考える	P. 35
自然科学からの学び	23- a12	暮らしの中の科学2	P. 36
	23- a13	環境と社会Ⅰ	P. 37
	23- a14	環境と社会Ⅱ	P. 38
	23- a15	大学の知と学術研究	P. 39

<グループB/b>

対象学部：

医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部

<教養モジュールⅠ科目>

人文社会科学からの学び	23- B1	日本を知り、世界を知る	P. 40
	23- B2	現代経済と企業活動	P. 41
	23- B3	変わり行く社会を生きる1	P. 42
	23- B4	現代の教養	P. 43
	23- B5	芸術と文化	P. 44
	23- B6	ICTの仕組みと活用法	P. 45
	23- B7	日本から世界へ（英語開講）	P. 46
生命医科学からの学び	23- B8	ヒトのからだを探る	P. 47
	23- B9	健康と共生	P. 48
	23- B10	ヒトの生物学とストレス	P. 49
	23- B11	文化と対人関係	P. 50
	23- B12	グローバル社会とコミュニケーション	P. 51
自然科学からの学び	23- B13	暮らしの中の科学	P. 52
	23- B14	身の回りの工学	P. 53
	23- B15	環境をめぐる諸問題	P. 54
	23- B16	海洋の生物多様性と生態系サービス	P. 55

<教養モジュールⅡ科目>

人文社会科学からの学び	23- b1	社会と文化の多様性	P. 56
	23- b2	変わり行く社会を生きる2	P. 57
	23- b3	文化と自然	P. 58
	23- b4	教育と社会	P. 59
	23- b5	現代経済と企業活動c	P. 60
	23- b6	現代経済と企業活動d	P. 61
	23- b7	日本文化史と現代の核問題（英語開講）	P. 62
生命医科学からの学び	23- b8	コミュニケーションに重要な感覚器を学ぶ	P. 63
	23- b9	ジェネティクス？エピジェネティクス？それって何？	P. 64
	23- b10	青壮年期における健康課題	P. 65
	23- b11	口腔健康管理と審美	P. 66
	23- b12	口と医療	P. 67
自然科学からの学び	23- b13	身の回りの科学	P. 68
	23- b14	人間活動と環境影響	P. 69
	23- b15	海洋環境における生命と物質の多様性	P. 70
	23- b16	海洋生態系の保全と管理	P. 71

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-A1 日本を知り、世界を知る		
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	野上 建紀	責任部局	多文化社会学部
趣 旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本（と日本人）を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなって生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		

プラネタリーヘルスとの関連性		説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「日本を知り、世界を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
日本のことばと世界のことば	原田 走一郎	日本語は敬語があって美しい、などと言われるが本当だろうか。そんなことを言う人は言語に対する知識が決定的に欠如している、ということが本講義でわかる。日本で使用されている言語を世界の言語という文脈で観察することで、自分自身の言語を相対的に見る訓練をする。	言語学 言語類型論 方言	
世界と日本の陶磁器文化交流	野上 建紀	考古学の資料の中でも陶磁器は、最も重要なものの一つである。世界各地で生産され、それぞれの地域や時代を映す「鏡」となっている。陶磁器を通して、その背後にある文化交流を読み解き、日本と世界の関わりについて理解を深める。	陶磁器 文化交流 考古学	

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	へ国際の関心・地域社会	取入り文科学の内容を	取り社会科の内容を
日本のことばと世界のことば	◎						◎			○	◎	
世界と日本の陶磁器文化交流	◎						◎			○	◎	○
◎（特に重視）の数	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0
○（重視）の数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-A2 現代経済と企業活動		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	井畑 陽平	責任部局	経済学部
趣 旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立しています。そして、この経済活動は様々な法律によって規制され、公平で公正な経済活動の実現が図られています。本モジュールの履修により、経済活動と法律の関わりを法律学の体系に沿って学ぶことが可能になります。		
プラネタリーヘルスとの関連性	プラネタリーヘルスを実現するためには、社会的秩序が健全に保たれる必要がある。健全な社会的秩序は個人だけでなく、企業をはじめたさまざまな組織等の経済主体によって維持・影響される一方、経済学的・経営学的観点から合理的な法規制・仕組みによることが必須である。よって、法学・経済学・経営学を学ぶ意義がある。	説明動画	
学生の皆さんのメッセージ	前提知識はとくに問いませんが、経済や法律について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、学習を進めていくことに関心のある者の受講を希望します。また、新聞や日々のニュースに耳を傾けることが、社会現象の観察眼・批判的思考力を向上させる機会となることを念頭に受講してください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
生活・経済活動と法	井畑 陽平	生活や経済活動をする上で生じうる問題について、法律が、実際どのように解決しているのかを学習する。	民法、刑法、行政法	○
企業活動と社会	林 麗桂	本講義では、企業、学校、病院、行政機関、ボランティア団体など様々な組織に焦点を当て、「組織とは何か」について基本的概念を中心に学ぶ。	経営学、経営組織論	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	国際的・地域社会	取入り扱う科学の内容を	取り扱う科学の内容を
生活・経済活動と法	◎		○	○	◎	○			○		○	◎
企業活動と社会	◎	◎					○			○	○	◎
◎ (特に重視) の数	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
○ (重視) の数	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-A3 核兵器のない世界を目指して		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	中村 桂子	責任部局	核兵器廃絶研究センター
趣 旨	広島・長崎の被爆から77年を経てなお、核兵器の廃絶と恒久平和の実現は人類の悲願であり続けている。その中で世界唯一の被爆医科大学を創基に持つ長崎大学として、「核なき世界」の実現は大学の存在意義の根源に関わる課題であるが、長崎大学に学ぶ学生としても共有すべき認識となることを願う。本モジュールは被爆地長崎で、広島・長崎の悲劇を二度と繰り返さないために、核兵器の廃絶に求められる具体的な知識やアプローチを様々な角度から学ぶことを目的とする。その際、国際政治学・国際法・社会学・倫理学・教育学・環境・経済・平和学など幅広い学問分野の基礎にたつて学び、考察する。		
プラネタリーヘルスとの関連性	その使用が人類滅亡に繋がりをうる核兵器の廃絶は、まさに地球の健康・安全と直結した人類的課題である。本モジュールでは、核兵器の問題をグローバル・ローカル両方の観点から掘り下げていく。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	核兵器の問題をめぐる、いま世界は大きな試練に直面しています。ロシアによるウクライナ軍事侵攻、そして核使用リスクの高まりは「核兵器のある世界」の危険性をまざまざと示しました。事実、世界には未だ1万2千発以上の核兵器が存在し、核兵器廃絶実現の兆しは見えません。被爆者ら世界中の市民が訴えてきた核兵器廃絶がなぜ未だに実現できないのでしょうか。そして、どのようにすれば実現できるのでしょうか。本モジュールでは、そうした素朴な「なぜ」に答えるとともに、「過去」「現在」「未来」を結びながら、核兵器廃絶への具体的な道のりをみなさんと考えていきたいと思えます。長崎大学に学んだことの証となるようなオンリーワンのモジュールです。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
核兵器とは何か	中村 桂子	「核兵器」とは何か、その基本的な仕組み、広島・長崎での実際を含むその効果、抑止概念、核兵器政策の歴史の変遷と現状、核軍備管理・軍縮・不拡散努力の歴史と現状、市民社会の動きなどを学ぶ。	核兵器、軍備管理、軍縮、不拡散、抑止、市民社会、NGO	○
国際社会と平和	河合 公明	「核兵器」という存在の背景にある国際社会の特徴と仕組み、戦争・紛争に関する問題、「平和」を実現するためのこれまでの取り組みなどについて学び、現代における平和とは何かを多様な視点から考える。	国際社会、平和、紛争、安全保障、人権	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力ややり取り	へ国際・地域社会	取人り文扱科うの内容を	取社り会扱科うの内容を
核兵器とは何か	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎		◎
国際社会と平和	◎	○	◎	○	◎	◎	◎			◎	○	◎
◎ (特に重視) の数	1	1	2	0	2	2	2	0	1	2	0	2
○ (重視) の数	1	1	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-A4 情報社会を考える		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	丹羽 量久	責任部局	ICT基盤センター
趣 旨	現代の情報社会を積極的に生きるためには大量の「情報」をうまく活用していかなければなりません。本モジュールでは、こうした情報社会に適応するために、情報が実社会ではどのように利用されているのかを多角的に知り、かつそれを解釈・活用・表現するための方法について学びます。		
プラネタリーヘルスとの関連性	課題成果を受講者間で相互評価する機会を設けることにより、数多くの他者の意見に触れることができます。自分では気づかない視点から成果を改善していくプロセスを繰り返すことにより、一人一人が特定の立場にとらわれない多面的な視点で課題に向き合うプラネタリーヘルスマインドを養います。	説明動画	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="font-size: small;">人文社会科学からの学び 23-A4 情報社会を考える</p> <p style="font-size: x-small;">変化が激しい現代の情報社会において大いに活躍するため、大量の「情報」がどのように利用されているのかを多角的に知り、それを解釈・活用、そして表現する方法を学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 情報と社会 <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな分野の「情報」に関わる「問いかけ」に対して、自分の考えをまとめ、他の受講者と意見交換して改善します。 ■ 情報化の役割と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分でテーマを設定し、その関連情報を検索・整理し、まとめた後にプレゼンテーションする過程から、効果的な手法を学びます。 </div>
学生の皆さんのメッセージ	今日の社会では、大学での学習・研究だけでなく、どんな場面でも「情報活用」が不可欠になっています。皆さんが卒業後の社会生活においても活躍していけるよう、本モジュールにてさまざまな知識と技能を身につけてください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
情報と社会	丹羽 量久 福澤 勝彦 鈴木 上繁 義史	授業では、四名の教員がそれぞれの専門分野を取り上げて、実社会における「情報」について講義し、皆さんに問いかけます。この問いかけに応える形で自分の考えをまとめ、さらに、受講者間の相互評価から自分の考えを洗練させます。	情報の価値 情報の結合・活用 人工知能 生体認証 情報の可視化	○
情報化の役割と課題	丹羽 量久	情報化により時間的・集積的・共有的などさまざまな価値が生まれます。この社会で実際に情報化された事例を取り上げて、その価値・応用について調べ、考えます。情報社会における情報化の役割・価値・課題について理解し、説明できることを目標とします。	情報社会 情報システム デジタル情報	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	へ国際の関心・地域社会	取人リ文科学の内容を扱う	取り扱科う学の内容を
情報と社会	◎	○	○		◎	○	◎	◎	◎		○	○
情報化の役割と課題	◎	◎	○	○	○		○	◎	○			○
◎（特に重視）の数	2	1	0	0	1	0	1	2	1	0	0	0
○（重視）の数	0	1	2	1	1	1	1	0	1	0	1	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-A5 国際社会を理解するための多様な視点		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	松村 真樹	責任部局	グローバル連携機構
趣 旨	グローバル化が進む現在、将来国際的な業務に携わるか否かに関わらず、世界情勢に無関心なままではいられなくなっています。このモジュールは、短期間で現状を理解し、広く浅く国際社会の状況を把握するために必要な基礎知識や歴史的背景を学び、地球市民の一人としてグローバル社会への関心を高めることを目的とします。まず、グローバル社会の多様性を理解するために、人口分布および人口構造とその変化を人口的に把握する方法を学び、さらにグローバル社会が直面しているさまざまな課題を具体的事例から考察します。		
プラネタリーヘルスとの関連性	人口増加、経済格差、気候変動、環境難民、パンデミックなど	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	いま世界は分断の危機に直面し、グローバル化の行方はますます不透明さを増しています。こういう時だからこそ、国際社会に関する情報を積極的に取り入れることが大切です。このモジュールが海外事情への関心を高める一助となれば幸いです。なお、このモジュールでは英文資料を読んだり、英語のインターネットサイトを閲覧する機会が頻繁にありますので、そのことを理解したうえで選択してください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
グローバル化時代の社会問題	松村 真樹	貧困と格差、不平等、民族や宗教の違いから生じる摩擦、移民や難民が直面している軋轢、気候変動、パンデミックなどの課題について具体的事例を概観する。	貧困・格差 不平等 環境・健康	○
人口学で見る世界の多様性	松村 真樹	出生、死亡、移動に関する人口統計、従属人口指数、人口転換論などを使って、世界人口の変化と多様性および人口動態と人口構造の変化に関連して生じる課題を考察する。	人口転換 少子高齢化 国際人口移動	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力 やり取り	へ国 際 関 心 地 域 社 会	取 り 扱 う 学 科 の 内 容 を	取 り 扱 う 学 科 の 内 容 を
グローバル化時代の社会問題	○		◎		◎		◎	○	◎	◎	○	◎
人口学で見る世界の多様性	◎	○	◎	◎	○		◎			◎	○	◎
◎（特に重視）の数	1	0	2	1	1	0	2	0	1	2	0	2
○（重視）の数	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-A6 他者や社会と関わる		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	當山 明華	責任部局	教育開発推進機構
趣 旨	<p>人が他者や社会と関わる際には、相互理解は必要不可欠なスキルです。このスキルを獲得するためには、他者および社会との関係性の理解が重要となります。我々は皆、社会の中で生きる一員として、既に存在する社会の中で育ってきます。つまり我々は、他者や社会のなかで今の自分になってきたともいえるのです。したがって、相互理解についての実践力を高めるためには、普段当たり前にとらえている他者及び社会と関わる状況を明らかにし、その上で各自のスキルをより機能的なものにしていくことが有効です。</p> <p>本科目群では、社会における相互理解を理論的に理解し、基礎的なスキルを高めつつ、実践力向上を目指します。前半で社会学の分野から他者や社会で起こる事象について理解し、後半は心理学の分野から自己との対話を含み他者との関わりについての深い理解に基づいた実践力向上を目指します。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	社会や集団が抱える問題について、社会学と心理学の知見を用い、様々な学部の学生同士がグループワークを行うことによって、新たな解決策を探る。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	大学や社会等での相互理解に必要とされる思考力・分析力など、様々な基礎能力を育成することを目指しているため、積極的な参加が不可欠です。授業内では他者とのコミュニケーションや自分の意見を持つことが強く求められ、授業後の課題提出も重要です。受動的に授業を受けたい人には不向きな授業であるため、その点に留意して受講してください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
社会問題を考える	岡田 佳子	人間関係に絡む現代的な諸問題について学修し、グループワークを通じて解決に向けた方策を考えていく。また、そこでの関わりから、人の多様性について考える力を身に付ける。	文化的再生産、学校文化、ジェンダー、ファッション	○
他者理解の心理学	當山 明華	自己と他者とのコミュニケーションだけでなく、自分自身とのコミュニケーションについての理解を深める。グループワークを通して、人の多様性や社会との関わりを理解し、生活に活かす。	思考パターン、意思決定、対人コミュニケーション、社会的ジレンマ、論理的思考	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	す考えをやり取り	ハ国際の関心・地域社会	取人リ文科学の内容を	取り扱おう学の内容を
社会問題を考える		◎	○		◎		◎	○	◎			○
他者理解の心理学	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	○	○	
◎（特に重視）の数	1	2	1	1	1	0	2	0	2	0	0	0
○（重視）の数	0	0	1	0	1	1	0	2	0	1	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

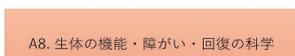
カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-A7 国際開発入門と日本文化史入門 (英語開講)		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	山下 龍	責任部局	グローバル連携機構
趣 旨	海外へ留学する際、自身のアイデンティティを確立することは重要で、中でも自国の文化や歴史そして国際的な立ち位置を説明できるようになることは必須です。本テーマでは、「日本文化史」と「国際開発」について英語で学んでいき、またそれを英語で発信できる知識や力を身につけることを目指します。日本という国が過去にどのような歴史を歩んで来たのか、そしてグローバル社会である今、どのような国際開発を歩んできているのかを学んでいきます。このモジュールでは、ローカルとグローバルの視点を繋ぎながら、日本と世界が向き合うさまざまな課題について考えを深めていきます。		
プラネタリーヘルスとの関連性	「プラネタリーヘルス」には言葉通り、国際協力は大変重要であるため、JICAなどの国際経験豊かな講師から指導されます。今後のことを考えるために、歴史も理解するべきと言えるでしょう。「温故知新」の心こそプラネタリーヘルスの心である。		
学生の皆さんへのメッセージ	これから海外の大学へ留学することを目指している学生や、英語による発信力を高めたい学生の受講を歓迎します。国際経験豊かな講師陣とともに、より実践的な内容を英語で講義します。是非講師と一緒に英語も鍛えましょう。 ※このテーマの科目は、すべて英語で授業が実施されます。テーマ決定後は、テーマを変更することはできません。		
	説明動画		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
Introduction to Japanese Culture and History	山下 龍	この講義では、日本の文化や社会を理解するために不可欠な明治末期までの歴史的な知識を楽しく学ぶことができます。	日本史、日本文化史、日本文化	○
Introduction to International Development	青木 恒憲	国際協力に関する主要な概念、課題、仕組み、アクター、日本の実例を学び、開発途上国との関わりを議論します。	国際協力、開発援助、SDGs、貧困、JICA、ボランティア、民間連携	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	へ国の際・地域社会	取り文科学の内容を	取り社会科学の内容を
Introduction to Japanese Culture and History	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	○
Introduction to International Development	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎
◎ (特に重視) の数	1	1	1	2	1	0	2	1	2	2	1	1
○ (重視) の数	1	1	1	0	1	2	0	1	0	0	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-A8 生体の機能・障がい・回復の科学		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	久保 嘉直	責任部局	医学部医学科
趣 旨	<p>コロナウイルスパンデミックの中、我々は様々な情報を受け取りながら、判断を迫られる経験をしています。例えばコロナ対策としてマスクを付けるか、付けないか、ワクチンを打つか、打たないか、判断を迫られます。医学的な内容だから難しいと思いがちで、どこか偉い専門家の言うことを鵜呑みにしてしまったり、たまたま目にしたネットの情報を正しいと思い込んだり、我々は容易に信じたいことを信じてしまいがちです。このモジュールでは感染症をテーマにどのように問題を捉え、情報を取捨選択し、批判的思考をすべきか学びます。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	<p>感染症はヒトの健康を脅かす重要な疾患の1つです。これまで感染症ではないと考えられていた疾患も近年の研究から感染症であることが分かった疾患もあります。更に幾つかの感染症は人畜共通感染症で、ヒトだけでなく動物にも感染し、生態系にも影響します。感染症はプラネタリーヘルスにおいて最も重要な問題の1つです。</p>	説明動画	 <ul style="list-style-type: none"> • BSE問題を振り返る • 新型コロナパンデミックと子宮頸癌ワクチンを考える
学生の皆さんへのメッセージ	<p>感染症は我々の生活・人生に大きな影響を与えます。無知であることはできません。ウイルスのことを学ぶことは決して難しいことではありません。ただ医学専門用語が難しく思わせている面があります。そういう困難さは問題意識を持って自ら学ぶことで容易に解決できます。また授業を通して議論することで何がわからないのかがわかるようになります。この授業では疑問を出発点に据え、様々な情報を入手し、得られた情報を元に議論を重ねることでもわかりにくいことは何かを考え、なぜわかりにくいのかを見つけます。そのためには安易に信じることをやめ、徹底的に疑うことをトレーニングします。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
BSE問題を振り返る	小林 篤史	食品の安全性をめぐる諸問題は今も存在する。その中で感染症の関わる問題としてBSEを取り上げ、過去の過ちから何を学ぶかを議論する。	BSE、プリオン、食の安全	○
新型コロナパンデミックと子宮頸癌ワクチンを考える	久保 嘉直	新型コロナや子宮頸癌のワクチンを打つべきか否かを議論するために、科学的データをどう読み、理解すべきなのかなどにチャレンジする。	新型コロナ、HPV、ワクチン、子宮頸癌	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	国際関・地域社会	取人文科学の内容を	取社会科学の内容を
BSE問題を振り返る	○	◎	◎	○	◎		○	○	○	○	○	◎
新型コロナパンデミックと子宮頸癌ワクチンを考える	○	◎	◎	○	◎		○	○	○	◎	○	◎
◎（特に重視）の数	0	2	2	0	2	0	0	0	0	1	0	2
○（重視）の数	2	0	0	2	0	0	2	2	2	1	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-A9 ハンディキャップの理解		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	井口 茂	責任部局	医学部保健学科
趣 旨	<p>障がいとは単に医学的な問題だけでなく、心身・活動・参加に関わる生活上の問題として捉える必要がある。そのため、障がいを捉えていく上で、障がいがあってもその人がその人らしく生きられ、社会全体が共に生きるという視点が重要である。本科目のテーマである「ハンディキャップの理解」では、「ソーシャル・インクルージョン」、「人権」、「リハビリテーション」の理念を理解し、子どもから高齢者までのすべてのライフサイクルが対象となる。</p> <p>本テーマでは、「老いと健康」と「障がい体験と支援」の2つの科目において、高齢者と障がい者の社会背景と基本的な生活課題を教授し、その課題解決について議論する。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	高齢化が及ぼす健康問題及び社会的影響 共生社会の意義	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	<p>前提とする知識は特に問いませんが、障がい者・高齢者に関わる生活問題に関心がある方、他学部の学生と協働して学習を進めていくことに関心がある方を歓迎します。本テーマの「障害体験と支援」では教室内だけの学習活動にとどまらずフィールドワークも取り入れますので、受け身の学習態度ではなく積極的な学習態度で臨んでほしいと思います。</p>		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
老いと健康	井口 茂 森内 剛史 横尾 誠一	加齢に伴って起こる心身の変化と健康・生活問題について理解する。また、高齢者体験を通して、高齢者の意識について考察していく。	高齢者の心身の健康、高齢者の生活、介護予防	○
障害体験と支援	東 登志夫 柳澤 沙也子 中尾 理恵子 西 祐樹	各種障がいの疑似体験を通して障害を理解するとともに、フィールドワークを通して支援の必要性について考察する。	障害、高齢者、支援、斜面	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際的・地域社会の関心	取人文科学の内容を	取り扱う内容を
老いと健康	○		○		◎	○		◎	○	◎	○	○
障害体験と支援	○	○				○	◎	◎			○	◎
◎（特に重視）の数	0	0	0	0	1	0	1	2	0	1	0	1
○（重視）の数	2	1	1	0	0	2	0	0	1	0	2	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-A10 薬と生命科学を理解するための基礎科学		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・水産学部		
テーマ責任者	田中 正一	責任部局	薬学部
趣 旨	<p>“生命とは何ぞや”という問いに、明確な答えは無いかもしれませんが。しかし命ある地球上の多様な生物は、化学物質で構成され、すべての細胞や組織では、複雑な化学反応系によって高次の生命活動が営まれ、制御されていることは明確です。薬は、これらの生命活動に直接関与することによって生体内の化学構造や機能の異常を改善するために用いられて来ました。また、一方で、期待されない障害を与えたことも事実であり、それもまた薬の本質ともいえます。これまでの人類の病気との戦いの中で発見された薬の歴史も振り返りながら、生命現象と薬のかかわりを学習することにより、生命とは何かを科学的に思考したいと思います。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性			
学生の皆さんへのメッセージ	<p>人類が、薬を見出し、使用してきた歴史は古く、薬と共に歩んできた長い道のりは文化史の一部とも言えます。本科目では、どのような薬を飲めば病気が治るのか、どのように使われるのか、といった実用上の知識を得ることを目標にしているものではありません。薬が生体にどのように作用し、病気を治癒することができるのか、どのようにして開発されてきたのか、を正しく理解するためには、化学物質である薬、生体のしくみ、病気の原因などの基本的な知識が必要です。モジュール I では、これらの基礎知識をわかりやすく、そして正しく理解できるように工夫します。また、その知識をもとに、薬を科学的かつ歴史的側面からも見つけ、演習、簡単な実験も交え学習します。薬というキーワードで、生命現象を共に考察してみませんか。</p>	説明動画	

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
ビギナーのための生物学	岩田 修永 城谷 圭朗 武田 弘資 谷村 進	細胞やその構成成分、細胞の機能と恒常性の維持、DNAや遺伝子の働き、酵素の働きなど、生物学の基礎やがんなどの病態メカニズムを学ぶ。さらに、遺伝子組換え技術をもとに開発された最先端医薬品（バイオ医薬品を含む）を例示し、その応用について科学的に考察する機会を持つ。与えられた課題に対して小グループで議論し、資料を作成して発表する。	遺伝子・酵素・細胞の機能、発がんのメカニズム、創薬研究、遺伝子組換え、遺伝子治療	
ビギナーのための有機化学	田中 正一 上田 篤志 真木 俊英	有機化合物は、ヒトの生活に欠かせない衣類、食品、医薬品等様々なものの原料となる。さらに、生命現象も有機化学反応が織りなすものといえる。この講義では、有機化学の基礎を学ぶ事で、生物の営みや自然現象を有機化学の視点から正しく理解し、説明できる力をつけることをねらいとする。	元素・分子・有機化合物・炭化水素・官能基・触媒・ゴム	

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力をやり取り	へ国際・地域社会	取入り文科学の内容を	取り扱った内容を
ビギナーのための生物学	○	◎	○	◎	◎	○			◎	○		○
ビギナーのための有機化学	◎	○		◎	○			○	○	○	○	
◎（特に重視）の数	1	1	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0
○（重視）の数	1	1	1	0	1	1	0	1	1	2	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

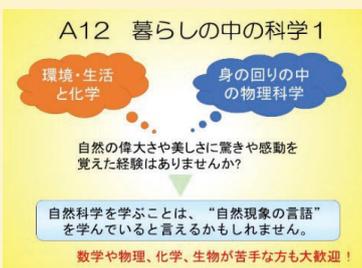
カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-A11 暮らしに活かす情報技術		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	上繁 義史	責任部局	ICT基盤センター
趣 旨	インターネットを世界経済・社会生活の土台として、デジタルトランスフォーメーション（DX）という変革が進行しています。インターネットを流通する情報を収集分析し活用することで、新たな付加価値を創造し続けることができるのです。この時代、私たちは情報や情報技術を正しく理解し、向き合い、活用していかなければなりません。本モジュールでは、情報の視点から、世界に適応する情報の基礎力獲得を目的に、2つのサブテーマについて学びます。①多種多様な情報を解釈・活用するための処理技術や手法、②情報や情報機器を安全に利活用するために必要な知識を習得します。		
プラネタリーヘルスとの関連性	情報は扱い方ひとつで個人だけでなく世界全体に良い影響も悪い影響も及ぼします。適切な情報の利活用によって、より安全で安心できる社会に発展させていくことが、地球の健康に向かう道と考えます。このモジュールでは、「情報」と「安全・安心」をキーワードに、プラネタリーヘルスの思考につながる基礎知識を学びます。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	コロナ禍を経験して、この社会では、どんな場面でも「情報や情報技術を活用していくスキル」が不可欠になっています。皆さんが卒業後の社会生活においても活躍していけるよう、このモジュールで、さまざまな知識や技能を身につけてください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
情報の活用	丹羽 量久	整った報告書（レポート）の効率的な作成に欠かせないデジタル文書作成技法およびデータ分析に応用できる中級レベルの表計算技法とその可視化技法について演習を交えながら学ぶ。	文書作成技法 表計算技法	
情報社会の安全と安心	上繁 義史	情報化社会における、セキュリティ維持について、基本となる知識や考え方を学ぶ。セキュリティ維持に必要な情報技術、ルール、運用の基礎について講義を行う。また、理解を深めるために、講義内容に関連した発展的な議題についてグループディスカッション等を行う。	情報セキュリティ セキュリティ技術 リスク管理 個人情報保護	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	① 知識・ 技能	② 主 体 性	③ 情 報 リ テ ラ シー	④ 論 理 的 組 み 立 て	⑤ 批 判 的 検 討	⑥ 倫 理 観	⑦ 多 様 性 の 理 解	⑧ 協 働 性	⑨ 考 え を や り 取 り	⑩ へ 国 際 の 関 心 ・ 地 域 社 会	A 取 り 入 り 文 科 学 の 内 容 を	B 取 り 入 り 理 学 の 内 容 を
情報の活用	◎	○	◎	◎	○				○			○
情報社会の安全と安心	◎	○	◎	◎	◎	◎			○		○	○
◎（特に重視）の数	2	0	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0
○（重視）の数	0	2	0	0	1	0	0	0	2	0	1	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-A12 暮らしの中の科学1		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	大嶺 聖	責任部局	工学部
趣 旨	<p>自然の偉大さや美しさに驚きや感動を覚えた経験はありませんか？人類は古くから、自然現象を理解しようと多大な努力を重ねてきました。自然現象は、私たちの生命維持に不可欠な食料・資源の源になったり、時には甚大な災いをもたらすこともあります。そのため、私たちは生きていく上で、自然現象を正しく理解していく必要があります。自然科学とは、自然界で起きる様々な事象の法則性を明らかにする学問です。つまり、自然現象をいかに抽象化し、近似するかを模索する学問です。一方、技術とは、それらの成果を巧みに利用して人間社会に役立てるための仕組みを作ることです。自然科学と技術の発展によって、我々の生活はとても豊かになってきました。科学技術の限界や危険性を正しく認識すると共に、謙虚な姿勢で自然現象の真理を見抜く目を養うことは、私たちが暮らしていく中で、とても重要なことです。</p> <p>本テーマでは、高校において修得しておくべき自然科学の内容を、大学生の視点から多面的に意味づけ再整理した上で、科学的な思考法と方法論の基礎を学び、身の回りの生活や先端科学技術と自然科学との関わりを理解していくことを目標としています。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	日常生活にも影響を及ぼす地球環境問題や自然災害など、地球の健康に関連する内容を含んでいます。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	<p>数学や物理、化学、生物が苦手な方も大歓迎です。共通ルール（定義）はしっかり覚える必要がありますが、それ以上の暗記は必要ありません。地球環境問題の解決のためには、自然科学との関係も理解することが重要です。自然科学を学ぶことは、“自然現象の言語”を学んでいると言えるかもしれません。</p>		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
環境・生活と化学	山田 博俊 小野寺 玄	地球環境や日常生活におけるさまざまな現象や物質の振る舞いを、原子・分子のレベルから系統的に理解する。また、日々の行動や選択において、化学的・科学的な根拠に基づき判断できることを目指す。	原子と分子、環境・エネルギー、有機生命化学、医薬品合成	○
身の回りの中の物理科学	大嶺 聖 杉本 知史	身の回りの生活に関わる、力やエネルギーなどに関する基本法則を学び、身の回りの現象を理解する。また、自然災害や物理・化学・生物と地球環境問題の関係を理解する。	力とエネルギー 自然災害、物理現象 地球環境問題	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	国際・地域社会	取人文科学の内容を	取社会科学の内容を
環境・生活と化学	◎	◎	○	○	○		○	○	○	○	○	○
身の回りの中の物理科学	◎	○		○	○		○	○	○	◎		○
◎（特に重視）の数	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
○（重視）の数	0	1	1	2	2	0	2	2	2	1	1	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

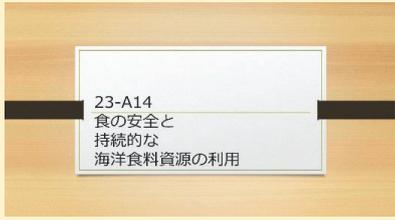
カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-A13 環境をめぐる諸問題		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	井口 恵一郎	責任部局	環境科学部
趣 旨	現在、私たちを取り巻く環境問題は複雑さを増し、もはや二項対立の単純な構図の中に解決の糸口を見出すことは困難な状況にある。「生物多様性」ならびに「地球温暖化」をテーマに掲げ、持続可能な社会の実現に資する専門知識の習得を目指す。		
プラネタリーヘルスとの関連性		説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	文理融合の学際的なアプローチから、環境問題の本質を理解するために有用な技術を学び取ってください。問題解決に当たって、自らの言葉で表現する態度を養って欲しいと願っています。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
生物多様性を考える	井口 恵一郎 関 陽子 山口 典之	地球上に生息・生育する種々の生物がお互いに競争・共存し、現在の複雑で多様な生態系が危ういバランスの上に成り立っていることを複数の事例を元に理解する。その上で、生物多様性の保全が目指すべき方向を学び、生物と人との関連を様々な視点から議論できる知識と素養を養う。	生物多様性、生態系、生物間相互作用、環境思想	
地球温暖化を考える	和達 容子 高尾 雄二 河本 和明	温室効果に伴う気象および気候の変化を学ぶ。また関連する国際条約の成立過程や内容について学び、国際間の立場の違いや国際社会への影響について考える。さらに、化石燃料の燃焼に伴い発生する大気汚染やエネルギー問題の現状を学ぶ。これらによって、地球温暖化の防止が技術的かつ国際的に複雑な問題であることを理解し、改善のための手法を提案し、予想される困難を考える。	温室効果、地球温暖化、化石燃料、炭素貯留、国際交渉	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	へ国際・地域社会	取人文科学の内容を	取り扱う科学の内容を
生物多様性を考える		◎	○			○	◎			○	○	○
地球温暖化を考える	○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎		◎
◎（特に重視）の数	0	1	1	1	0	0	1	0	1	1	0	1
○（重視）の数	1	1	1	0	1	2	1	1	0	1	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-A14 食の安全と持続的な海洋食料資源の利用		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部		
テーマ責任者	濱田 友貴	責任部局	水産学部
趣 旨	海洋は生物、鉱物、エネルギーなど様々な資源の宝庫です。環境共生型社会の実現には、これらの貴重な資源を持続的に利用する必要があります。このモジュールでは長崎県で見ることができる事例を織り交ぜながら、海洋生物資源の生産・管理・食品利用、持続可能で効果的な資源利用に関する様々な切り口と海洋に対する現代社会の諸課題を学びます。海洋と海洋生物の科学についての文系・理系の枠を超えて多面的に学習することで幅広い教養を身につけ、環境と調和した持続可能な社会の実現のためにどうすればよいのかを考えられるようになります。		
プラネタリーヘルスとの関連性	本学が展開するプラネタリーヘルスとの関係では、「海・人・生物資源」の関係を知り、考えるものです。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	海と海の生物に深い関心があり、主体的な学習意欲を持つ方を歓迎します。授業内容を良く理解するためには、高校卒業程度の理科に関する知識を持っていることが好ましい。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
海洋食料資源の応用	市川 寿 濱田 友貴 谷山 茂人 王 曜	長崎県の水産物や水産加工品を中有心に、栄養成分とその変化、鮮度と製造、さらには、衛生管理、安全確保に関わる諸問題を理解することで、食に関する今日的な課題にどう対処したら良いかを考えます。	水産物・水産加工品・栄養成分と変化・鮮度・食品衛生	○
人から見た水産業	亀田 和彦 山本 尚俊 清水 健一	漁船と漁具・漁法には安全性・効率性・環境への配慮が、漁獲と価値形成には流通や経済の視点が欠かせません。これらを切り口に、a)漁獲の対象となる生物が生息する海洋生態系、b)日本では少なくとも縄文時代からヒトだけが持つ道具作成能力に由来する漁具や漁船に関係する歴史と現状、c)産業として見る経済学的視点、から話題を提供します。高等学校での生物、物理、公民のかかわりが深い科目です。	人間・水産・漁業・道具・船と航海・漁船漁業・資源と環境・食料問題・持続性	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会への関心	取人文科学の内容を	取り扱う内容を
海洋食料資源の応用	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○
人から見た水産業	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎
◎（特に重視）の数	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1
○（重視）の数	1	1	2	2	2	2	2	2	1	1	2	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-A15 環境と人類の持続可能な発展		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	竹下 哲史	責任部局	研究開発推進機構
趣 旨	21世紀市民のコモンセンスとして環境配慮への理解と環境保全に関する基本的な知識を修得し、人類の持続可能な発展 (sustainable development, SD) を実現するための基本的な姿勢を身につけることを目的としている。そのため、環境問題の考え方や環境関連の国際法および国内法の精神を理解するとともに、環境教育・環境コミュニケーションの重要性を理解することを目的としている。		
プラネタリーヘルスとの関連性	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p>説明動画</p> </div> <div style="flex: 2;">  </div> </div>		
学生の皆さんへのメッセージ			

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
国際環境法	竹下 哲史 久保 隆 山下 敬彦	環境問題に対する考え方、環境法（国際法）の歴史と特質およびそれらの概要について学習し、環境問題の基本的考え方や国際環境法の理念・精神について理解を深める。	環境問題の基本的考え方、人間環境宣言、国際環境法	
国内環境法	竹下 哲史 久保 隆 山下 敬彦	日本における環境問題とそれらに対する対策の考え方や歴史、国際環境法との関係ならびに、日本における環境に関する基本的法律である「環境基本法」等について学習し、進むべき方向やとるべき行動等について理解を深める。	日本の環境問題、環境基本法、環境教育、進むべき方向ととるべき行動	

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力 やり取り	へ国際・地域社会	取 人 文 科 学 の 内 容 を	取 り 扱 う 内 容 を
国際環境法	◎	◎	○	○	○	◎	◎		○	◎	○	○
国内環境法	◎	◎	○	○	○	◎	◎		○	○	○	○
◎（特に重視）の数	2	2	0	0	0	2	2	0	0	1	0	0
○（重視）の数	0	0	2	2	2	0	0	0	2	1	2	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-a1 社会と文化の多様性		
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	森 元斎	責任部局	多文化社会学部
趣 旨	グローバル化が広く進展している現在、私たちはこれまで以上に世界を知る必要に迫られている。そして、このことは必然的に日本（と日本人）を知ることが私たちに求められる。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパといった時空軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなっている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。		
プラネタリーヘルスとの関連性		説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	グローバル化が急速に進むなかで、私たちは文化的・社会的・歴史的・思想的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活することになります。「社会と文化の多様性」を学ぶことは、他者を理解し、自己を相対化することに繋がる知的な営みです。こうした状況を生き抜いていくための知恵を共有できればと思います。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
思想からみた九州	森 元斎	近代以降の九州、とりわけ現在の国道3号線沿い周辺域で生じた出来事を、近代化の流れへの抵抗という仕方論じ、民衆がどのようにして生きてきたのかを明らかにします。	近代化、国道3号線、九州、アジア、ヨーロッパ、思想史	
「文化」の境界と「伝統の創造」	姉川 雄大	「文化の多様性」を考える際、私たちは、境界線で区切られた「文化」が複数存在し、それぞれに固有の「伝統」がある、と誤ってしまいがちです。よく多様性を特徴とする地域と言われる東ヨーロッパ（特にハンガリー）の事例から、このこと自体を問いなおし、それを通じて「日本」についても考え直すヒントにします。	ヨーロッパ、伝統、文化、ハンガリー、民族音楽	

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	へ国の際心・地域社会	取人り文扱科う学の内容を	取り社会扱科う学の内容を
思想からみた九州	◎	○			○	○	◎		○	○	◎	○
「文化」の境界と「伝統の創造」	◎		○		○	○	◎			◎	◎	
◎（特に重視）の数	2	0	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0
○（重視）の数	0	1	1	0	2	2	0	0	1	1	0	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-a2 文化の交流と共生		
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	福田 紗耶香	責任部局	多文化社会学部
趣 旨	グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に世界の様々な人たちと共生する必要に迫られています。本モジュールでは、文化人類学と教育社会学という2つの学問的アプローチ方法を用い、地域的には東南アジアと欧州を中心に、人間同士の交流と共生のあり方の多様性について学びます。そのうえでグローバル化にともなって生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を実践的に身につけることを目標とします。		
プラネタリーヘルスとの関連性	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 10px; margin-right: 10px;">説明動画</div>  </div>		
学生の皆さんへのメッセージ			

科目名	担当者名	概要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
東南アジアから学ぶ多文化共生	細田 尚美	この授業では、多様な文化的背景を持つ人々と共存する方法を試みてきた東南アジアの国々を紹介します。東南アジア島しょ部の国々を中心とした具体的な事例を通じて、多文化共生にはいくつもの方法があることを学び、将来に向けて私たちはどのような多文化共生の方法を選びとるべきかについて考えます。	多様性 グローバリゼーション 若者 アイデンティティ 日本とのつながり	
欧州に学ぶ多文化と教育	福田 紗耶香	20世紀後半以降社会の急激な多様化に向き合ってきたヨーロッパ諸国と、多様化の課題が浮かび上がりつつある日本を比較しながら、多文化社会における教育課題と現状について紹介します。事例やデータから多文化社会において教育の不平等がどのように表出しているか学ぶことで、教育の「あたり前」を問い直し、多様な人々が共に生きていくために必要な視座を身につけましょう。	多文化社会 欧州 移民 教育格差 地域研究	

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	へ国際の関心・地域社会	取人リ文扱科学の内容を	取り扱科学の内容を
東南アジアから学ぶ多文化共生	○	○	○		◎		◎		○	◎	○	◎
欧州に学ぶ多文化と教育	○	○	○		◎		◎	○	○	◎	○	◎
◎（特に重視）の数	0	0	0	0	2	0	2	0	0	2	0	2
○（重視）の数	2	2	2	0	0	0	0	1	2	0	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

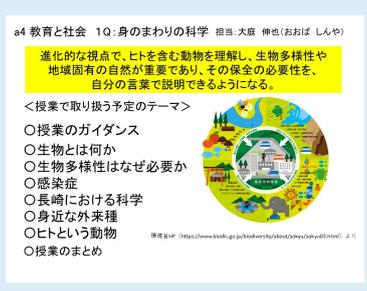
カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-a3 教育と文化		
対象学部	多文化社会学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	加納 暁子	責任部局	教育学部
趣 旨	本モジュールでは、文化の中でも芸術（美術・音楽）について学習します。教育において、美術（図画工作）、音楽は幼児教育、小学校から高等学校において指導され、豊かな感性を育み、人間の成長にとって必要で大切な分野といえます。本モジュールでは、芸術を多角的な観点から捉え、その表現性や創造性について学び、現代社会において必要となる創造的・想像的思考を培います。		
プラネタリーヘルスとの関連性	自分の感覚を通して感じることのベースを培っていくこと（感性を涵養すること）がプラネタリーヘルスを感性を通して納得することに貢献する。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	教育と芸術について関心のある方の受講を希望します。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
芸術	加納 暁子 菅野 弘之 中川 泰 金原 雅樹 宮崎 友里子	音楽分野では実践（器楽表現）を行いながら、人間と音楽の関わりについて深く学ぶ。美術分野では実際に制作することで、人間と美術の関わり、美術表現の喜びや感動を学ぶ。	人間と音楽、音楽教育 人間と美術、美術教育	○
美術	兼原 啓二	美術に関する歴史と実技（絵画）を通して、美術について多角的に学び、表現力を身に付ける。	絵画表現	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力 やり取り	国際・地域社会 の関心	取 り 扱 う 内 容 を	取 り 扱 う 内 容 を
芸術	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	○
美術	◎	◎	○	○	○	○	◎		◎	◎	◎	
◎（特に重視）の数	2	2	0	0	0	0	2	1	1	2	2	0
○（重視）の数	0	0	2	2	2	2	0	0	1	0	0	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-a4 教育と社会		
対象学部	多文化社会学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	星野 由雅	責任部局	教育学部
趣 旨	教育は、今ある社会にすぐに影響を与えるわけではありませんが、教育の本質である人づくりを通じて、将来の社会に大きな影響を及ぼすようになります。モジュール「教育と社会」では、教育が社会に与える影響について、自然科学と環境の学びを通して、考えを深める機会を与えます。自然科学及び環境・の各分野について、身のまわりからグローバルな範囲までの問題・課題を教育現場（学校や地域社会）の視点から学んでゆきます。		
プラネタリーヘルスとの関連性	身近な環境への負荷から地球規模での環境への負荷について学ぶとともに、学生としてあるいは将来就いた職業人、それぞれの立場から環境改善について考え、討論し、受講時における最適解を探る検討を行う。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	教員免許の取得を考えている方、その他広く「教育」に関心のある方も選択可能です。高等学校までの教科の枠組みや理系・文系に制限されない内容で構成しています。諸分野と教育との関わりについて深く考えたり、他の学生たちと議論を交わしたりしてみたいという方は選択してください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
身のまわりの科学	大庭 伸也	我々ヒトを含む動物が地球上に誕生してから現在に至るまでのプロセスを理解する。また、動物の多様な種類、形態、行動、生活史、生態が如何にして形作られてきたのか、身近に起こりつつ外来種問題の是非について考えていきます。	地域固有の生態系 感染症 保全 外来種問題 生態学 行動学	○
環境と社会	星野 由雅	環境と社会がどのように関わっているかを環境基本法などで大まかに捉え、具体例として環境要因がどのように自然環境や人間等に影響を与えているのかを学習し、学校教育の中で、それをどのように扱って行けば良いのかを考える。また、他国の環境と社会との関わりを多角的に調べるとともに、長崎県の環境に関する課題も取り上げ、対策・施策について理解を深める。	環境法規 化学物質 地球温暖化 放射線 エネルギー問題 長崎県	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	国際・関心・地域社会	取入り文科学の内容を	取社り会科学の内容を
身のまわりの科学	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎
環境と社会	◎	◎	○	○	○	○	◎	○	○	◎	○	◎
◎（特に重視）の数	2	2	0	1	1	0	2	1	1	2	0	2
○（重視）の数	0	0	2	1	1	2	0	1	1	0	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

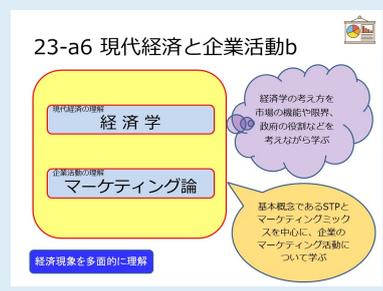
カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-a5 現代経済と企業活動a		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	式見 拓仙	責任部局	経済学部
趣 旨	一国の経済は、企業、政府、家計などの経済主体が財、サービス、お金、労働力などを相互にやりとりすることによって成り立っている。このような経済の仕組みを理解する一助として、本モジュールでは企業行動の分析と統計分析の基礎的な話題について学ぶ。		
プラネタリーヘルスとの関連性	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>23-a5 現代経済と企業活動a</p> <p>■モジュールの趣旨 現代社会の安定と繁栄を支える経済活動を理解するために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計解析の初歩 ・企業活動と戦略 <p>■科目名とキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計解析の初歩: データの要約, 相関分析, 回帰分析, 確率分布 ・企業活動と戦略: 事業戦略, 全社戦略, 業界分析, 経営資源 <p style="text-align: right;"> 長崎大学</p> </div>		
学生の皆さんへのメッセージ			

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
企業活動と戦略	高井 計吾	現代経済において優れた業績をあげている企業と、そうでない企業の差はどこにあるのだろうか。本講義では両者の違いを「戦略」の観点から探求し、業界分析の手法や戦略のビジネスへの応用方法などとあわせて学ぶ。	経営戦略論 企業論	
統計解析の初歩	式見 拓仙	経済、社会現象を読み解く上で様々な統計データや統計量を理解しておくことが必要となる。初歩的な統計量から始まり、確率分布、回帰分析、経済データに関するいくつかの統計指標を学ぶ。	統計分析 経済データ	

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるをやり取り	国際・地域社会	取入り文学の内容を	取り扱う科学の内容を
企業活動と戦略	◎			◎	◎				○	○		○
統計解析の初歩	○	○	◎	◎	◎						○	○
◎ (特に重視) の数	1	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0
○ (重視) の数	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-a6 現代経済と企業活動b		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	島田 章	責任部局	経済学部
趣 旨	現代経済と企業活動を経済学とマーケティング論をつうじて学ぶ。現代経済を理解するために、市場の価格調整メカニズムや限界、それを補うためにおこなわれる政府の経済政策について理解することを目指す。また企業活動を理解するために、企業の戦略をマーケティングの視点から考察し、経営的視点から複眼的で幅広い知識を獲得することを目指す。		
プラネタリーヘルスとの関連性		説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、自発的・積極的に学習を進めていく意欲のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾け、社会現象に対する観察眼・批判的思考力を向上させる努力を怠らないようにしましょう。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
経済学	島田 章	市場経済においても、政府は重要な役割をもっている。ミクロ経済学の基礎に基づいて市場の機能と限界を学び、市場経済において政府がどのような役割を果たせるかをマクロ経済学の基礎に基づいて学ぶ。	市場の価格調整メカニズム、政府の役割	
マーケティング論	高橋 史早	企業が市場において適切な戦略を展開していくためには、自社の製品・サービスの買手である消費者についての深い理解が不可欠である。この講義では、企業のマーケティング戦略および消費者心理について学ぶ。	ブランド、関与、マーケティング戦略	

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	国際・地域社会	取入り扱う科学の内容を	取り扱う科学の内容を
経済学	○	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎
マーケティング論	◎	○	○	○	○		◎		○	○	○	◎
◎（特に重視）の数	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	2
○（重視）の数	1	2	2	1	1	1	1	1	1	2	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-a7 平和と安全保障 (英語開講)		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	清田 智子	責任部局	グローバル連携機構
趣 旨	国際社会は「無政府状態 (anarchy)」であると言われ、人類は2度の世界大戦と数多くの紛争を繰り返してきました。現在も米中や米中が対立を深め、イエメンでは内戦が続き、ミャンマーでは軍による民衆への弾圧が行われています。日本も3つの核兵器保有国に囲まれ、北朝鮮によるミサイル実験も頻発し、決して平和を謳歌しているとはいえない状況にあります。一方で、国際社会は国連や多国間枠組みを設立することで外交による紛争解決にも努めてきました。核兵器の軍縮・不拡散の流れは、まさに自国の安全や国益を最大化しようとする勢力と、世界平和を希求する人々のせめぎあいと言えます。日本は自国の安全や国益を守りながら、いかに国際社会の平和や安定に寄与すべきでしょうか。この講義で一緒に考えていきましょう。		
プラネタリーヘルスとの関連性	戦争は、自然破壊や健康被害にもつながりプラネタリーヘルス実現に向けた我々の努力を一瞬で無にする行為です。いかに平和を維持し、地球の健康も維持するか考えます。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	このモジュールでは、実際に外交や軍縮の現場で働いてきた講師が、より実践的な内容を実践的な英語で講義します。今後国際的に働いてみたい方は、是非講師と一緒に英語も鍛えましょう。 ※このテーマの科目は、すべて英語で授業が実施されます。テーマ決定後は、テーマを変更することはできません。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
Japan's Foreign and National Security Policy	清田 智子	日本の外交・安全保障問題で特に議論が分かれる問題を取り上げ、日本の進むべき道を議論します。	同盟、集団的安全保障、領土問題、国連、海洋秩序、難民問題	○
Toward a Nuclear Weapon-Free World	中村 桂子	核兵器をめぐる世界の動きや日本の立ち位置を俯瞰的にとらえるとともに、私たち一人ひとりと核兵器問題との繋がりを考えていきます。	核軍縮、核不拡散、市民社会、平和・軍縮教育	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	国際・地域社会	取人リ文科学の内容を	取り扱科学の内容を
Japan's Foreign and National Security Policy	○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	○	◎
Toward a Nuclear Weapon-Free World	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	○	◎
◎ (特に重視) の数	0	1	2	2	0	0	0	0	2	2	0	2
○ (重視) の数	2	1	0	0	2	2	2	2	0	0	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-a8 健やかに生きる		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	青柳 潔	責任部局	医学部医学科
趣 旨	公衆衛生的視点から、健康を考える。国民が相互に連帯して支え合い、国が必要な扶助を行うことにより、国民の生存権を保障するのが社会保障の概念である。医療保障とは、国民が傷病の際に必要な医療を効果的に受けられることを保証する制度である。わが国は国民皆保険制度である。健康増進は疾病の予防のみならず、健康状態を向上するための行動を含んだ積極的な概念である。		
プラネタリーヘルスとの関連性	ヒトの健康、社会保障、栄養	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生は集団の健康を対象とするものです。生活水準の保証、環境の改善、健康教育の推進の立場から、健やかに生きる方策を学んでいきましょう。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
社会保障と医療保障制度	青柳 潔 有馬 和彦 水上 諭	国民が相互に連帯して支え合い、国が必要な扶助を行うことにより、国民の生存権を保障するのが社会保障の概念である。医療保障とは、国民が傷病の際に必要な医療を効果的に受けられることを保証する制度である。	社会保障、公的扶助、福祉、医療保険	○
健康増進	青柳 潔 有馬 和彦 水上 諭	健康増進は疾病の予防のみならず、健康状態を向上するための行動を含んだ積極的な概念である。	健康日本21、健康増進、生活習慣	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会への関心	取人文科学の内容を扱う	取社会科学の内容を扱う
社会保障と医療保障制度	◎				○	◎		○		◎	○	
健康増進	◎				◎	○		◎		○		◎
◎（特に重視）の数	2	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	1
○（重視）の数	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	1	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-a9 社会・環境と生命を考える		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	井上 信一	責任部局	医学部医学科
趣 旨	我々人間は、地球上に生命を宿しています。生命を維持するためには、他の生命体や無生物から構成される自然環境、さらに人々が構成する社会環境などの外部環境との関わりが必須です。本モジュールでは、人が生きていく上で重要な臓器や個体について、その機能や構造を理解し、自然環境や社会環境との関わりについて学びます。これら環境との長い関わりを経て、個人の生命体は少しずつ障害され、様々な異常を呈するようになり、やがて老化し、最後は死を迎えます。生命と死について考えると共に、皆さんが長く健康な生活を送るため、自分の体についての理解を深めることを目標にしています。		
プラネタリーヘルスとの関連性	我々はこの地球環境の中で生活している。地球環境の乱れは、我々生物の健康の乱れに密接に関連する。本講義では、環境因子(微生物、大気汚染、喫煙など)の影響を受けやすい臓器である肺、腎臓について考える。また、人間の生死にも地域・地球環境は大きく関与している。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	我々は生きています。そのことをどの程度考えて毎日を送っているのでしょうか？このモジュールでは、「生命」について考えます。生命の最小単位は「細胞」ですが、それらが構成する「臓器」そして「個体」の理解の上に、「自然環境」や「社会」との関わりをテーマにします。自分を知り、健康で豊かな生活を送るため、生命、体、病気、老化、医療そして死について考えてみましょう。講師は医学部のスタッフですが、一般の方が知っておくべき内容を中心に解説します。講義に加えてグループ学習などを通じ、健康問題について考えてみましょう。皆さんの今後の長い人生をより豊かで実りあるものとするため、生命について一緒に考えてみましょう。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
個体と社会生命を哲学する	池松 和哉 村瀬 壮彦	人間はいつか死を迎えるが、その最期は様々です。死、死に至る過程、老化、医療について社会的な面から考えるための素材を各講師が講義します。学生にも発表形式での参加をしてもらうこともあります。	生と死・社会医学	○
環境による肺や腎臓への影響	迎 寛 西野 友哉 尾長谷 靖 牟田 久美子 井上 信一 竹本 真之輔 高園 貴弘 城戸 貴志	肺や腎臓は、人が生きる上で必須ですが、一方外界の影響を強く受ける臓器です。肺と腎臓は、どのように機能して生命を支えているのか理解を深めます。また肺は、喫煙、大気汚染、感染症、発がん物質などの外的要因で障害を受け、腎臓も食生活などの生活環境がその機能に大きく影響します。肺と腎臓について、どのような障害を生じどのように回避するかを学び、生きるとはどういうことが考えます。	環境 ニコチン依存症 がん 感染症 食生活	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	国際・地域社会への関心	取入り文科学の内容を	取り扱科の内容を
個体と社会生命を哲学する			◎		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
環境による肺や腎臓への影響	◎	○		◎	◎		◎	◎				○
◎（特に重視）の数	1	0	1	1	1	1	1	2	2	1	1	0
○（重視）の数	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-a10 くすり～過去・現在・未来～		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・水産学部		
テーマ責任者	鳥羽 陽	責任部局	薬学部
趣 旨	“生命とは何か？”という問いに、明確な答えは無いかもしれませんが。しかし命ある地球上の多様な生物は、化学物質で構成され、すべての細胞や組織では、複雑な化学反応系によって、高次の生命活動が営まれ、統御されていることは、明確です。薬は、これらの生命活動に直接関与することによって生体内の化学構造や機能の異常を改善するために用いられてきました。また、一方で、期待されない障害を与えたことも事実であり、それもまた薬の本質ともいえます。これまでの人類の病気との戦いの中で、発見された薬の歴史も振り返りながら、生命現象と薬のかかわりを学習することにより、生命とは何かを科学的に思考したいと思います。		
プラネタリーヘルスとの関連性	プラネタリーヘルスの観点から、生命現象と薬のかかわりを学習し、生命とは何かを科学的に考察します。		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>人類が、薬を見出し、使用してきた歴史は古く、薬と共に歩んできた長い道のりは文化史の一部とも言えます。本科目では、どのような薬を飲めば病気が治るのか、どのように使われるのか、といった実用上の知識を得ることを目標にしているのではありません。薬が生体にどのように作用し、病気を治癒することができるのか、どのようにして開発されてきたのか、を正しく理解するためには、化学物質である薬、生体のしくみ、病気の原因などの基本的な知識が必要です。本科目では、これらの知識をわかりやすく、そして正しく理解できるように工夫します。また、その知識をもとに、薬を科学的かつ歴史的側面からも見つけ、学習します。薬というキーワードで、生命現象を共に考察してみませんか。</p>		
	<p>説明動画</p> 		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
高齢化社会と地域医療・薬とのかかわり	鳥羽 陽 向井 英史 安孫子 ユミ 吉田 さくら	長崎県は高齢化社会の先進地区であり、将来の日本の重要な医療モデルである。出島に近代西洋科学が導入されたくすりの歴史から、現在の高齢化社会の疾病とくすりの使われ方まで、医療経済を含めて、長崎県を起点として高齢化社会におけるくすりとの付き合い方を学ぶ。	くすり、高齢者、医療、医療経済、長崎県	○
伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)	尾野村 治 栗山 正巳 山本 耕介	人類の病気との戦いの歴史は、医薬品創成の歴史でもある。経験的に見いだされた伝承薬や天然物から発見された医薬品、コンピュータによってデザインされた医薬品など、医薬品はどのように合成し供給されるのか。化学が医薬品開発に果たしてきた役割を学ぶ。	医薬品 化学合成 天然物	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考える力 やり取り	⑩ へ国際 関心・地域 社会	A 取 り 入 り 文 科 学 の 内 容 を	B 社 会 科 学 の 内 容 を
高齢化社会と地域医療・薬とのかかわり	○	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	○
伝承薬から最先端医薬品まで(薬はこうして創られる)	○	◎		◎	○	○		◎	◎			
◎ (特に重視) の数	0	2	0	1	0	0	0	2	2	1	0	0
○ (重視) の数	2	0	1	1	2	2	1	0	0	0	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-a11 病気と薬を考える		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・水産学部		
テーマ責任者	金子 雅幸	責任部局	薬学部
趣 旨	これまで人類はさまざまな病気を克服してきましたが、癌など未だに治療困難な病気、新しい感染症、メタボリックシンドロームなど、私たちが向き合わなくてはならない病気はまだたくさんあります。そのような病気との闘いで最も重要な役割を担い続けているのが「薬」です。しかし、多くの薬は使用法を誤れば毒であり、薬の有効性と安全性を理解して適正に使用することが非常に重要です。本テーマでは、医療現場でのさまざまな疾患に対する薬物治療と、薬が体の中でどのように働いているのかについて学びます。また、薬の開発の歴史や健康食品についても科学的に考えます。		
プラネタリーヘルスとの関連性	古来より人間は、地球に存在する物質をくすりとして、またくすりの原料として利用してきました。地球が不健康になれば、資源枯渇の危機に陥ります。つまり地球の健康を保つことが、私たち人間の健康を保つ鍵なのです。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	最近の法律改正で、薬を適正に使用しその有効性と安全性の理解に努めることが国民の義務として定められました。薬局やインターネットで欲しい薬がいつでも手に入るようになり、薬の安易な使用で副作用のリスクが増えたことが背景にあります。また、最先端の薬により多くの病気が治療できるようになった半面、作用の強さは副作用のリスクを伴うことを理解することが求められています。本テーマでは、この病気はどのような薬を飲めば治るのかといった実用上の知識を得ることを目標にしているではありません。実際の薬物治療がどのような考えのもとで行われているのか、薬が生体にどのように作用して病気を治すのか、薬の開発のもととなった薬草や毒草、そして健康食品について学ぶことで、薬の恩恵とリスクについて自分で考えられるようになることを目指します。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
薬との賢い付き合い方	金子 雅幸 塚原 完	薬の効くしくみや体内での動きを理解すること、また、医薬品の影の部分（副作用）を知ることは、一消費者として薬と賢くつきあうためばかりでなく、生体の機能を知り、生命現象の理解を深めることにもつながる。この科目では、いくつかの薬（習慣性薬や癌治療薬など）を例に取り、薬と賢く付き合うために、生命科学分野以外にも医薬経済学、薬事、薬史学、医薬倫理学といった、社会科学、人文科学的分野についても学ぶ。	薬理作用、体内動態、副作用、癌、生活習慣病、麻薬、向精神薬	○
疾病と薬物治療	都田 真奈 北里 海雄	癌、循環器疾患、消化器疾患、精神神経疾患、自己免疫疾患、ウイルス感染症などの様々の疾患に対する薬物治療法の中から、いくつかの代表例について学ぶ。また、病気との向き合い方や病気に影響する遺伝・生活因子などについても学ぶ。	様々な疾患・治療法・環境因子・遺伝因子	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	国際・地域社会	取入文科系の内容を	取入理工系の内容を
薬との賢い付き合い方	○	◎	○	○	○	◎	○	◎	◎	○	○	○
疾病と薬物治療	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○
◎（特に重視）の数	1	2	1	0	0	2	0	1	1	0	0	0
○（重視）の数	1	0	1	2	2	0	2	1	1	1	1	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-a12 暮らしの中の科学2		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	下本 陽一	責任部局	工学部
趣 旨	本テーマは、モジュール1の「暮らしの中の科学1」の発展テーマとして位置づけています。しかし、決して専門的なハイレベルの内容のみを取り扱う訳ではなく、身の回りの生活や自然現象をより詳しく理解するための自然科学に関する教養科目として進めていきます。技術の進歩とともに我々の生活も非常に豊かになりましたが、同時に失われつつあるものも増えてきているのではないのでしょうか。先の震災で、私たちは生きていく上で、自然現象を正しく理解していく必要性を強く感じましたし、科学技術の限界も同時に痛感しています。複雑な現代社会の中で科学技術が担う役割は益々大きくなっていますが、自然界で起きる様々な現象は、今も昔も変わらない普遍的な法則に従っています。本テーマでは、自分の意思を合理的に決定する数理学的方法について具体例を示しながら学びます。また、医薬品をはじめ、日常生活に不可欠な物質を合成するための方法論を学び、物質の構造や性質についてより詳細に学んでいきます。		
プラネタリーヘルスとの関連性	安全で健康な持続可能社会構築のための光機能材料の分子設計、抗ウィルス薬・抗がん剤等の医薬品合成	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	「暮らしの中の科学1」を発展させ、数学、合成化学について更に深く学習できるようにしています。日常生活に関わるしくみを科学的手法や考え方に基づいて、判断できるようにします。専門先取り科目やサブメジャー科目として取り組む事もできるようにアドバンス的な内容も加えていきます。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
分子設計と合成化学	木村 正成 有川 康弘	医薬品や機能性材料など、我々の生活に不可欠な有用物質の性質や構造を理解すると共に、分子設計と合成化学について学ぶ。	分子設計、合成化学 創薬化学、機能性材料、 長崎県	○
意思決定の数理	下本 陽一	日常生活の様々な場面において自分の意志を合理的に決定する方法を、数理学をもとに理解する。	離散数学、情報理論 ゲーム理論	

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力 やり取り	国際的・地域社会 の関心	取 入 り 文 科 学 の 内 容 を	取 り 扱 う 内 容 を
分子設計と合成化学	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○
意思決定の数理	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	○
◎（特に重視）の数	2	2	1	2	2	1	1	0	1	1	0	0
○（重視）の数	0	0	1	0	0	1	1	2	1	1	2	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-a13 環境と社会Ⅰ		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	服部 充	責任部局	環境科学部
趣 旨	本テーマでは、環境と人間の社会生活との関係について、経済政策的側面・社会的側面・歴史的側面から考えます。また、環境保全と持続可能な社会を維持するための経済的な仕組み、法や制度、地域の取り組みなどについて紹介し、環境問題に関連する対策について説明します。どのような環境保全のありかたが望ましいのかについて考えましょう。		
プラネタリーヘルスとの関連性	環境問題の現在や、取られている対策の紹介から受講生にも環境問題を身近なものとしてとらえられるよう心がけます。そして、どのような行動をとるべきなのか考えることのできる知識を身に付けていただきます。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	環境問題は、異常気象や大規模災害の頻度増加などとも関連しており、我々の生活と大きくかかわっています。本講義では、環境問題の初歩的な捉え方とその解決策について、紹介します。みなさんの専門性を生かすための知識として役立ててください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
環境と社会運動	友澤 悠季 戸田 清	公害・環境問題を環境社会学の視点から考える。政府、企業、専門家との対立や協力の相互作用のなかでの社会運動の役割について議論できる教養を身につける。長崎県と関係のある環境問題についても触れる。	公害問題、社会的対立・協力、多視点からの社会運動	○
生態系と社会	服部 充 遠藤 愛子	生態系、生態系機能、生態系サービスについて一般論として説明した後、生態系サービスについて事例を交えつつ説明をおこなう。外来種などの人間へ被害を及ぼす生物や地球環境変動が生物多様性に与える影響について、生態学の視点から学ぶ。また、環境問題の社会的影響評価の方法について、経済学の視点から学ぶ。	外来種、生物間相互作用、生物多様性、環境影響評価	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会への関心	取人文学科の内容を扱う	社会科学の内容を扱う
環境と社会運動	◎	○			◎	○	◎		○	◎	○	◎
生態系と社会	○	◎			◎		◎			◎		◎
◎（特に重視）の数	1	1	0	0	2	0	2	0	0	2	0	2
○（重視）の数	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-a14 環境と社会Ⅱ		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	濱崎 宏則	責任部局	環境科学部
趣 旨	<p>グローバルな環境問題を考える際にローカルな地域社会の視点は重要です。大量消費型社会から脱却し、循環型社会の形成を達成して社会の持続的発展を促すために、現在のさまざまな資源利用のありかたを考察し、将来的にどのような資源利用と管理のありかたが望ましいのかを考えることが必要です。この「環境と社会の共生」では、地域の資源の特色に合わせた資源利用と管理のありかたを地域の実例とともに考えます。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	本テーマでは、プラネタリーヘルスと関連して、環境教育、SDGs、地域環境のレジリエンス、持続可能な資源の利用と管理、ライフスタイルの変革をキーワードに、講義を展開します。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	環境問題は、皆さんの現在のライフスタイルに直結しています。資源利用と管理が実際の生活にどう結びついているのかを考えながら、資源の動向を決定づけているメカニズムや組織を理解することによって、地域における環境と社会の共生の在り方を理解すると同時にグローバルな資源問題への理解へつなげます。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
資源管理論	濱崎 宏則 重富 陽介	土地資源、水資源、森林資源、水産資源、エネルギー資源等さまざまな資源が持つ特質を理解し、資源配分を決める経済的、政治的しくみと管理について地域の実例を挙げながら概説します。	グローバル社会、資源管理、意思決定、資源の希少性、コモンズ	○
地域の環境を考える	深見 聡 黒田 暁	多様な地域の環境には、様々な可能性があります。過度な経済効率性の追求や、いわゆる都市部からの視点からではなく、地域がもつ固有性に注目した持続可能な社会のあり方について考えます。	SDGs、地域の視点、ツーリズム、観光公害、地域再生、環境自治、長崎県	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際的・地域社会への関心	取人リ文科学の内容を扱う	社会科学の内容を扱う
資源管理論		◎	○	○	○			◎	◎	○		◎
地域の環境を考える		○	○		○	○	○	○		◎		◎
◎（特に重視）の数	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2
○（重視）の数	0	1	2	1	2	1	1	1	0	1	0	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-a15 大学の知と学術研究		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	辻 高明	責任部局	教育開発推進機構
趣 旨	大学という学術機関は新たな知識を創造する場です。本テーマでは「研究ベース学習」を通して、大学における学術研究について体験的に学びます。「研究ベース学習」とは、プロジェクトベース学習（PBL）を念頭に置き、大学教員・研究者ではなく、学部学生が学術研究という知識創造のプロセスを体得することを目的に設計したアクティブラーニングです。具体的には、論文を作成するために必要なスキル・技法の習得だけでなく、実際に、自ら問いを設定し、論文の作成、さらには学生同士の論文査読や研究成果の発表までの科学的方法をPBL形式で体験します。そして、研究文化の学習観や技法を体得しながら、大学の知と学術研究について主体的に学びます。		
プラネタリーヘルスとの関連性	多面的な視点で課題と向き合い、知恵を出し合って、解決策を探らし、新しい知を創っていくマインド（すなわち、プラネタリーヘルスマインド）を身に付ける上で本科目は大いに関連しています。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	大学で主体的に知識を創造することに関心を持ちましょう。本テーマでは、学術機関としての大学を理解し、皆さんが、実際に研究の体験を通して新たな知の創造に取り組めます。国内の大学で、研究を早い段階で体験する実践は、京都大学では「学術研究始め」、東京大学では「科学の技法」などとして、すでに実施されています。皆さんは、学術的スキルに触れたことはあっても、論文の作成や査読、論文の修正までを含めて科学的方法を体験した方はほぼいないと思います。本テーマでは、皆さんと共に、長崎大学ならではの研究ベース学習を構築します。		

科目名	担当者名	概要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
研究ベース学習Ⅰ：アカデミックスキルズとフィールド情報学の技法	辻 高明	「グループでのアイデア出し」「学術論文の書き方」「学術文献の読み方」「伝える文章の書き方」「図表の見方・作り方」「プレゼンの方法」といった実践的なアカデミックスキルズについて習得する。さらに、各種データ収集・分析の方法として、エスノグラフィ、ケースライティング、ヒューマンセンシング、ワークショップデザインといったフィールド情報学の技法について学ぶ。	アカデミックスキルズ フィールド情報学	○
研究ベース学習Ⅱ：科学的方法の体験	辻 高明	研究ベース学習Ⅰで習得したアカデミックスキルズやフィールド情報学の技法を用いて、「問いの設定、対象の選定、データ収集・分析、成果のまとめ」という論文作成のプロセスをPBL形式で体験する。さらに、学生同士の論文査読や研究成果の発表も経験し、一連の科学的方法について体得する。	知識創造 PBL 論文の作成と査読	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力 やり取り	へ国際・地域社会	取 り 扱 う 内 容 を	取 り 扱 う 内 容 を
研究ベース学習Ⅰ：アカデミックスキルズとフィールド情報学の技法	◎	○	○	◎		◎		○	○			○
研究ベース学習Ⅱ：科学的方法の体験	○	◎	○	◎	◎	○	○	◎	◎	○	○	◎
◎（特に重視）の数	1	1	0	2	1	1	0	1	1	0	0	1
○（重視）の数	1	1	2	0	0	1	1	1	1	1	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B1 日本を知り、世界を知る		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	原田 走一郎	責任部局	多文化社会学部
趣 旨	グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られています。このことは必然的に「日本(と日本人)を知る」ことをわれわれに求めます。他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければなりません。本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、北南米といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、芸術、言語、交流、教育、政策などの視点から世界と日本を考察します。そして、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することを目指します。そこから、グローバル化にともなって生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの目標です。		
プラネタリーヘルスとの関連性	この星においてヒトは良くも悪くも影響力の大きい存在のうちの一つである。そのヒトの営為を知ることの重要性は言を俟たない。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くことになります。「日本を知り、世界を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、また、そうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけてください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
日本のことばの多様性	原田 走一郎	日本という国の領域内には実は大きな言語的多様性がある。それには長崎などで使用されている方言も含まれるし、アイヌ語なども含まれる。言語的多様性の観察を通して、日本や自分自身についての理解を深めてほしい。	言語学 言語的多様性 方言学	○
長崎から海外輸出された陶磁器	野上 建紀	江戸時代、長崎から世界に向けて多くの陶磁器が輸出されていた。唐船やオランダ船によってアジア、ヨーロッパに運ばれただけでなく、スペイン船によってアメリカ大陸へも運ばれていた。世界に運ばれた陶磁器を通して当時の日本と世界のつながりを見ていく。	肥前磁器(有田焼・波佐見焼) 歴史考古学	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	へ国際・地域社会	取入り文科学の内容を	取り扱科う学の内容を
日本のことばの多様性	◎				○		◎	◎	◎	◎	◎	○
長崎から海外輸出された陶磁器	◎						◎			○	◎	
◎(特に重視)の数	2	0	0	0	0	0	2	1	1	1	2	0
○(重視)の数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B2 変わり行く社会を生きる1		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	内野 成美	責任部局	教育学部
趣 旨	社会の変化は、これまで私たちが経験したことのない速さで、かつ大規模に進んでいます。本テーマでは、私たちの身近に起こっている社会の変化を、心理、社会、多様性の理解、そして価値観という4つの視点から紐解いていきます。そして、変化する社会の中でいかに生きるか、また将来目指すべき社会の姿やよりよく生きる自分の姿について考えます。		
プラネタリーヘルスとの関連性	この授業では、自分も含めた“個”に対する肯定的な視線の向け方や、情報化社会の中の多様なメッセージに対するしっかりとした判断力の育成についてしなやかに考えていくことを目的としています。	説明動画	
学生の皆さんのメッセージ	今の社会、ひいては将来の社会の姿を作っているのは、私たち一人ひとりです。しかしその私たち一人ひとは異なる意識や視点、経験を持っています。そうした“個”を意識するとともに、社会という“集団”の中で対応する力をつけるべく、本モジュールでは、私たちが生きる社会の変化について学び、これからの社会の在り方について考える機会にしましょう。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
心と社会	内野 成美	臨床心理学の視点から、コミュニケーションや多様性への理解を深める。また、発達障がい、対人緊張など、様々な対人関係の困難が生じる事例をもとに、カウンセラーの役割を知り、相談の意義を理解する。	カウンセラー、傾聴、社会人基礎力、臨床心理学	○
社会とマスメディア	矢野 香	ことばや映像を活用して社会にメッセージを発信する新聞、ラジオ、テレビ、インターネットを取り上げ、その中でのことばの使われ方や映像の工夫などを理解するとともに、それらを批判的に受け取り、論理的に考える態度の育成を図る。	マスメディア、マイメディア、新聞、ラジオ、テレビ、インターネット	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	国際・地域社会	取人リ文学の内容を	取り扱った内容を
心と社会	○	○			○	○	◎	◎	◎		○	○
社会とマスメディア	○	◎	○	○	○	◎	○			○		○
◎（特に重視）の数	0	1	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0
○（重視）の数	2	1	1	1	2	1	1	0	0	1	1	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

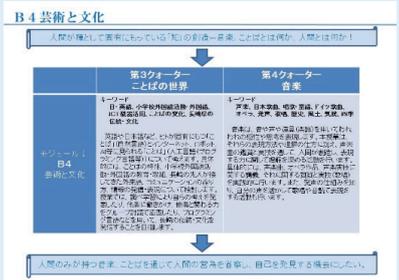
カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B3 現代の教養		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	工藤 哲洋	責任部局	教育学部
趣 旨	<p>21世紀のグローバル社会を生きる人々には、たんに自己の専門分野の知識を深めるだけではなく、ひろく人文・社会科学や自然科学に関係する基礎知識や研究方法を身につけ、真の意味での教養人であることが要求されます。</p> <p>本モジュールでは、モジュール I の各科目で人文科学・社会科学・自然科学の基礎知識や研究方法を修得したのち、各自の関心に応じて、それぞれの分野でより深い知識や研究態度を身につけることができるように、モジュール II の科目を選択できるようになっています。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	人文科学や自然科学の学修を通して、プラネタリーヘルスについて考えるための基盤を養う。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	特定の知識や観点到に偏らず、ものごとに対する広範な知識とそれを考察するための多面的な研究態度を身につけ、現代を生きる教養人をめざしてください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
文化と社会	田口 由香 中島 貴奈	明治維新期の歴史や文学を学ぶことで、日本の近代国家形成と国際関係を理解し、現代のグローバル化に対応する力を養う。	明治維新、歴史、文学	○
自然の科学	工藤 哲洋	教養としての天文学を学ぶ。宇宙と自分とのつながりを認識し、自然との関わり力を培う。	宇宙、恒星、地球	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	国際・地域社会	取入り文科学の内容を	取り扱った科学の内容を
文化と社会	○	○					○			○	○	
自然の科学	◎	◎		◎	○			○	○			○
◎（特に重視）の数	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
○（重視）の数	1	1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

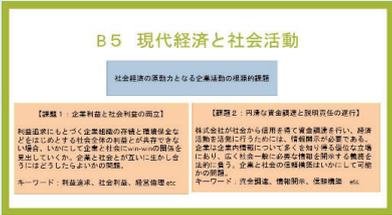
カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B4 芸術と文化		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	松元 浩一	責任部局	教育学部
趣 旨	21世紀のグローバル社会を生きる今日の学生には、単に自己の専門分野の知識を深めるだけでなく、ひろく人文・社会科学や自然科学に関係する基礎知識や研究方法を身につけ、さらに、国立大学の学生として、芸術も理解・表現できるような、真の意味での教養人であることが求められている。本モジュールでは、人文・社会科学・教育科学の基礎知識や研究方法、芸術の理解・表現方法等について、大学生に求められる教養や知識や研究態度を涵養することを目的として開設する。		
プラネタリーヘルスとの関連性	唱歌・童謡・歌曲の理解から、ことばの変化、歴史・風土・気候・季節との関連を知り、環境や生活の変化への理解へと深めてゆく。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	特定の知識や観点到に偏らず、ものごとに対する広範な知識とそれを考察するための多面的な研究態度を身につけ、21世紀を生きる教養人を目指してほしい。		

科目名	担当者名	概要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
ことばの世界	松元 浩一 中村 典生 倉田 伸	英語や日本語を初めとする「ことば」を題材にし、コミュニケーション上有用なICT機器の活用も含めて、現代に生きる人間活動の諸問題をことばと情報の観点から考察する。	日・英語、外国語活動、ICT機器活用、長崎県	○
音楽	宮下 茂	声楽曲やオペラ作品等を取り上げ、歴史や風土との関りを知り、音楽作品を鑑賞し理解を深める。発声の仕組みを知り、自分の声を活かして歌唱や音読で表現をする。	声楽、日本歌曲、唱歌・童謡、ドイツ歌曲、オペラ、発声、歌唱、歴史、風土、気候、四季	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	へ国際・地域社会	取り扱う科学の内容を	取り扱う科学の内容を
ことばの世界	◎	◎	◎	○	○			○	○	○	◎	○
音楽	◎	○	○				○			○	◎	○
◎（特に重視）の数	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0
○（重視）の数	0	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B5 現代経済と企業活動		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	林川 万理水	責任部局	経済学部
趣 旨	社会経済の原動力となる企業活動について、その根本課題を考える。企業利益と社会利益の両立はいかになされるか、円滑な資金調達と説明責任の遂行による企業と社会の信頼構築はいかに実現されるかという2つの大きなテーマを考察することにより、社会に生きる企業の在り方を問いながら現代経済と企業活動を学ぶ。		
プラネタリーヘルスとの関連性		説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	社会で生きる上で企業活動の恩恵を受けない人は皆無とわかっていいでしょう。経済を動かすバリユードライバーである企業は、その重要性ゆえに法規によって様々なことが定められています。生かされる企業とはどのようなものかを考え、より良い社会を創造していく第一歩にしましょう。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
経済活動と社会	高井 計吾	現代経済において、企業は重要な役割を果たしている。それら企業がいかに社会と関わり、目的達成にむけて活動しているのかを、組織、戦略の観点から学ぶ。	経営組織、経営戦略	
企業の仕組みと行動	林川 万理水	株式会社が社会から信用を得て資金調達を行い、経済活動を活発に行うためには、情報開示が必要である。企業は企業内情報について多くを知り得る優位な立場にあり、広く社会一般に必要な情報を開示する義務を法的に負う。企業と社会の信頼構築はいかにして可能かを考える。	資金調達、情報開示、信頼構築	

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	国際・地域社会の関心	取人リ扱うの内容を	取り扱うの内容を
経済活動と社会	◎			◎	◎				○	○		○
企業の仕組みと行動		○	○			○	◎				◎	○
◎（特に重視）の数	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0
○（重視）の数	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B6 コミュニケーション基礎講座		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	岡田 佳子	責任部局	教育開発推進機構
趣 旨	<p>今日、コミュニケーション力は社会人の基礎力の中核とされており、大学卒業時に期待される多くの能力のなかでもその筆頭に挙げられています。我々は皆、特定の文化圏に生まれた者として、既に存在するコミュニケーションの網目の中で育ってきます。つまり我々は、個人としてコミュニケーションを行う以前に、コミュニケーションのなかで今の自分になってきたともいえるのです。したがって、コミュニケーションの実践力を高めるためには、普段当たり前にとらえているコミュニケーションにまつわる対人関係や社会問題など、自分が置かれた文化的・社会的な諸状況を俯瞰的に分析するための視座をもつことが、自分と異なる他者と関わるうえで非常に重要な課題となります。そのため、本科目群では、対人関係や社会問題に関し、多様な見方や分析的な視点を持つこと、そしてその視点を活かして実際に他者とコミュニケーションをとるための表現力・ディスカッション力等の諸能力を育成することを目指します。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	本モジュールは、プラネタリーヘルスを実現するために、多様な価値観を持つ他者を理解すること、また、他者とディスカッションや協働を行い、新しい企画を生み出すことを学ぶ科目群である。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	このモジュールでは自分の経験や社会的・地域的な課題について客観的・分析的に捉え直す視点を培い、考え、表現する力をつけていくことをねらいとしています。そのため、本モジュールでは、皆さんの積極的な参加が不可欠です。授業内では他者とのコミュニケーションや自分の意見を持つことが求められます。本モジュールではグループワークや課題の配点を高くしています。そのため、受動的に授業を受けたい人には不向きな授業であるため、その点に留意して受講してください。社会の中にある様々な問題について一緒に考えていきましょう。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
対人関係の社会学	岡田 佳子	成長と共に広がる人間関係の中で身についていく思考やふるまい、関係性について理解を深める。また、協同学習を通して人の多様性について考える力を身につける。	社会化・家族・ジェンダー・学校文化・社会階層	○
企画を通してコミュニケーションを考える	松井 史郎	社会は様々な「企画」で動いています。どのようなコミュニケーションを生み出すことを意図して企画が作られているのか、そのプロセスや作り手の意図を理解する努力を通してコミュニケーションの在り方を考えます。	社会ニーズ・態度変容、行動変容・広告・プランニング	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	へ国際の関心・地域社会	取人リ文扱科う学の内容を	取り会扱科う学の内容を
対人関係の社会学	○	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	◎
企画を通してコミュニケーションを考える	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎
◎（特に重視）の数	0	2	0	1	2	1	2	1	2	1	0	2
○（重視）の数	2	0	2	1	0	1	0	1	0	1	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

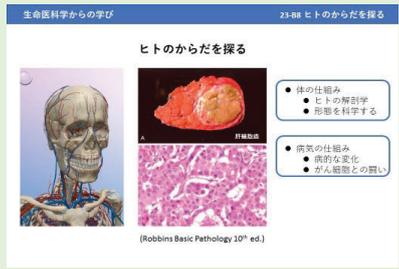
カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B7 日本から世界へ (英語開講)		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	清田 智子	責任部局	グローバル連携機構
趣 旨	Think globally, act locallyというフレーズは元々環境問題への対応から生まれましたが、一国外交・安全保障や開発問題を考える上でも非常に重要な視点です。各国がそれぞれの国益のために動けば、世界は再び軍事力に支配される戦争ばかりの状態になるでしょう。世界中の国々がそれぞれの地域全体や世界全体の平和、繁栄、安定のことを考えて動けば、海上交通路やサプライチェーンも円滑に回り国際経済が発展していき、やがて一人ひとりの生活が豊かになっていくはずですが、さらに、日本は依然としてGDP総額で世界第3位の経済力を有しており、国際社会では他国よりも多くの貢献が求められています。このモジュールでは、日本の外交・安全保障や開発援助を世界的な視点から捉えなおし、日本が自国の国益を維持しつつ国際社会の平和、繁栄、安定に寄与するにはどうすれば良いか一緒に考えていきます。		
プラネタリーヘルスとの関連性	国際協力の場面ではいかに地球の環境を維持しつつ開発を進めていくか問題になります。本講義では国益や貧困脱却とプラネタリーヘルスのバランスを考えます。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	このモジュールでは、実際に開発や外交の現場で働いてきた講師が、より実践的な内容を実践的な英語で講義します。Act locallyにとどまらずAct globallyを目指す方は、是非講師と一緒に英語も鍛えましょう。 ※このテーマの科目は、すべて英語で授業が実施されます。テーマ決定後は、テーマを変更することはできません。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
Japan's Foreign and National Security Policy	清田 智子	日本の外交・安全保障問題で特に議論が分かれる問題を取り上げ、日本の進むべき道を議論します。	同盟、集団的安全保障、領土問題、国連、海洋秩序、難民問題	○
Introduction to International Development	青木 恒憲	国際協力に関する主要な概念、課題、仕組み、アクター、日本の実例を学び、開発途上国との関わりを議論します。	国際協力、開発援助、SDGs、貧困、JICA、ボランティア、民間連携	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	国際・地域社会	取リ文科学の内容を	取リ社科学の内容を
Japan's Foreign and National Security Policy	○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	○	◎
Introduction to International Development	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎
◎ (特に重視) の数	0	0	1	2	1	0	1	1	2	2	0	2
○ (重視) の数	2	2	1	0	1	2	1	1	0	0	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B8 ヒトのからだを探る		
対象学部	医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	森 亮一	責任部局	医学部医学科
趣 旨	生物に限らず、あらゆるものにおいては、その機能を最大限に発揮するために必然的にそのようなかたちが成り立っています。したがって、ヒトのからだを観察すると、ヒトがヒトとなりえた所以が随所に見て取れます。その仕組みや異常について、おもに形態学の視点から学びます。さらに、ヒトのからだに生じる病気の基本的なメカニズム、例えば、炎症、癌などについて学びます。ヒトの疾患の中で、とくに“がん”に注目して、その本態から最先端の治療までをわかりやすく講義します。		
プラネタリーヘルスとの関連性		説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	形態学とはもののかたちからさまざまな情報をえて、その本質を理解する学問です。本モジュールではとくにヒトに焦点を絞り、そのからだを構成するさまざまな臓器、器官の成り立ちをわかりやすく説明します。次に、ヒトの臓器や細胞に起こる病的な変化を概説します。さらに、皆さんが興味ある疾患に関して、大学病院で最先端の医療に携わっている外科医、形成外科医の方々の方がわかりやすく講義します。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
体の仕組み	田中 克己 村井 清人 遠藤 大輔 榎山 和也	ヒトのからだの構造について、基礎医学と臨床の立場からわかりやすく説明します。解剖学では、とくに骨・関節、脳・神経を中心に解説します。形成外科では、顔面、手・足を中心とし、形態の点から科学的に捉え、その変化についても考察します。	人体 解剖学 形態学 機能	
病気の仕組み	森 亮一 江口 晋 朴 盛俊 金高 賢悟 小林 和真 今村 一步 森田 道 足立 利幸 原 貴信 平山 昂仙	体に起こる病的な変化（炎症、癌、代謝異常など）を概説し、その原因と進展、ヒトが死に至る過程を考察します。特に、癌に着目し、手術療法、抗がん剤、免疫療法など現代医学の挑戦を紹介します。	病因 病態 癌 治療	

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	国際・地域社会への関心	取入 り 文 科 学 の 内 容 を	取入 り 文 科 学 の 内 容 を
体の仕組み	◎	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
病気の仕組み	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
◎（特に重視）の数	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
○（重視）の数	0	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B9 健康と共生		
対象学部	医学部医学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	折口 智樹	責任部局	医学部保健学科
趣 旨	<p>健康とはただ疾病や傷害がないだけではなく、身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態をいう。また健康問題を考えるとき病気や障害があってもその人がその人らしく生きられ、社会全体が共に生きる（共生）という視点が重要である。</p> <p>ここでの「共生」には「多様性」「人権」「リハビリテーション」「社会福祉」も含まれる。そのためにモジュール I では健康と共生について学ぶための基本的知識について概観する。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性		説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	<p>前提知識は特に問いませんが、健康問題に関心がある方、ほかの人と協働して学修を進めていくことに関心がある方を歓迎します。受け身の学習態度ではなく積極的な学修態度で臨んでほしいと思います。</p>		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
社会における精神健康	永江 誠治 辻 麻由美 岳 こなみ	社会から見た心理学・精神医学的側面、精神障害に関する基礎的内容（精神障害、その支援）について理解する。	シネマ・サイキアトリー、精神保健、精神障害	
人の健康について	折口 智樹 田中 貴子 澤井 照光	人の健康ならびに健康問題について理解する。健康と生活・運動習慣、環境との関連について検討する。	生活習慣、運動、環境、健康問題	

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	国際・地域社会	取入り扱う科学の内容を	取入り扱う科学の内容を
社会における精神健康	○	◎		○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎
人の健康について		◎	○		○	○	◎	○	◎			○
◎（特に重視）の数	0	2	0	0	1	1	2	1	1	0	0	1
○（重視）の数	1	0	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B10 ヒトの生物学とストレス		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	筑波 隆幸	責任部局	歯学部
趣 旨	人（ヒト）について理解するには、自然科学・社会科学・人文科学などの多面的観点から総合的に把握することが必要であるが、本モジュールでは自然科学の中でも特に生物学・医学・歯学的な観点を中心に、ヒトの特性について理解することを第一の目標とする。テーマ「ヒトの生物学」では、生物の基本的な特性として、生命現象を営む仕組み、遺伝の仕組み、細胞の働きを理解することによって、ヒトについての生物学的特徴の理解を深める。また生命活動を営んでいく上で、生体の全身的なバランスは恒常性によって一定に保たれているが、テーマ「ストレスと健康」では、そのバランスを乱す可能性のある多様な刺激によって生じたストレスが生体にどのように影響を与えるか、また生体はそれらのストレスに対してどのような防御機構を有しているかについて学習する。		
プラネタリーヘルスとの関連性	「ヒトの生物学」では基本的な体の仕組みというミクロの視点と健康・生命科学のマクロの視点から解説講義を行うことでプラネタリーヘルスの基本編講義となっている。また「ストレスと健康」では人間と環境との関連を物理的、化学的、生物的、心理的、社会的要因から解説するのでプラネタリーヘルスの応用編の講義となる。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識は全く問いません。生物としてのヒトについて興味のある方を歓迎します。本モジュール I のテーマは、生物学・医学・歯学・環境科学・医用生体工学などに関連する基本的な知識を習得するのに最適です。モジュール II で医学・歯学の臨床系などに関連するテーマを受講する予定の方にも推奨します。ただしアクティブラーニングを行いますので発表していただくことになります。		

科目名	担当者名	概要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
ヒトの生物学	住田 吉慶 松下 祐樹 永野 健一 片瀬 直樹 魚返 拓利 森石 武史	ヒトを含めた生物を理解するための基礎的な知識や概念を学習する。特に遺伝の仕組み、タンパク質・脂質・核酸・細胞の働き、味覚、体内時計、骨の役割を理解する。健康、生命科学的課題についてアクティブラーニング法も取り入れて学習する。	遺伝子・タンパク質・脂質・核酸・細胞・味覚・体内時計・骨	○
ストレスと健康	筑波 隆幸 庄子 幹郎 佐藤 啓子	ヒトを取り巻く環境からの物理化学的ストレスについて学習するとともに生命体としてそれらのストレスにどのように対処し、克服しているかについて理解する。	紫外線・活性酸素・感染・老化・神経系・内分泌系・免疫系	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	国際的関心・地域社会	取人文学科の内容を	取り扱う内容を
ヒトの生物学	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	○	○
ストレスと健康	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	○
◎（特に重視）の数	2	2	1	2	1	1	1	2	2	0	0	0
○（重視）の数	0	0	1	0	1	1	1	0	0	2	2	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリ	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B11 文化と対人関係		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	當山 明華	責任部局	教育開発推進機構
趣 旨	<p>人と人が関わる際には、コミュニケーションは必要不可欠なスキルです。これは社会人の基礎力の中核とされており、大学卒業時に期待される多くのスキルのなかでもその筆頭に挙げられています。他方で、我々は皆ヒトという生き物として、また特定の文化圏に生まれた者として、既に存在するコミュニケーションの網目の中で育ててきます。つまり我々は、個人としてコミュニケーションを行う以前に、コミュニケーションのなかで今の自分になってきたともいえるのです。したがって、コミュニケーションの実践力を高めるためには、普段当たり前にとらえているコミュニケーション状況を明らかにし、その上で各自のコミュニケーションスキルをより機能的なものにしていくことが有効です。</p> <p>本科目群では、前半で心理学の分野からコミュニケーションが生じる状況について理解し、後半は社会学の分野からコミュニケーションの深い理解に基づいた実践力向上を目指します。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	社会が抱える問題について、社会学と心理学の知見を用い、様々な学部の学生同士がグループワークを行うことによって、新たな解決策を探る。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	<p>本科目群は大学や社会でのコミュニケーションに必要なとされる思考力・分析力・コミュニケーション力など、様々な基礎能力を育成することを目指しています。そのため、この科目群では皆さんの積極的な参加が不可欠です。</p> <p>授業内では他者とのコミュニケーションや自分の意見を持つことが強く求められ、授業後の課題提出も重要です。受動的に授業を受けたい人には不向きな授業であるため、その点に留意して受講してください。</p>		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
対人関係を考える	當山 明華	自己と他者とのコミュニケーションだけでなく、自分自身とのコミュニケーションについての理解を深める。グループワークを通して、人の多様性や社会との関わりを理解し、生活に活かす。	思考パターン、意思決定、対人コミュニケーション、社会的ジレンマ	○
人間関係の社会学	岡田 佳子	人間関係に絡む現代的な諸問題について学修し、グループワークを通じて解決に向けた方策を考えていく。また、そこでの関わりから、人の多様性について考える力を身に付ける。	文化的再生産、学校文化、ジェンダー、ファッション	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	へ国際・地域社会	取人文科学の内容を	取り扱う学の内容を
対人関係を考える	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	○	○	○
人間関係の社会学		◎	○		◎		◎	○	◎			○
◎ (特に重視) の数	1	2	1	1	1	0	2	0	2	0	0	0
○ (重視) の数	0	0	1	0	1	1	0	2	0	1	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B12 グローバル社会とコミュニケーション		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	青木 恒憲	責任部局	グローバル連携機構
趣 旨	このモジュールでは、国際協力という視点からグローバル社会をより深く理解するための知識と教養だけでなく、自らの考えを伝え相手の考えに共感できる相互理解を進める方法を身につけます。具体的にはグローバル社会の多様性を理解するために、地球上で今なお貧困による経済、社会的困難に苦しんでいる人々に対して世界がどのように対処しているかを開発援助の面から学びます。そして、現代社会で求められる異文化とのコミュニケーションも受講することによって、グローバル化された世界における社会の状況とそこで活躍するために求められる能力は何か理解を深めます。		
プラネタリーヘルスとの関連性			
学生の皆さんへのメッセージ	グローバル化が急速に進展する中、日本人も異なる文化、歴史、習慣を持つ人々との社会での共生と無縁ではられません。従って、これからは日本社会もグローバル社会の一部であるという認識が必要であり、このモジュールでは国境、国家にとらわれず地球規模で活躍する人材の育成を目指しています。そこでは語学力だけでなく、自身が目指す人材に必要なとなる基礎的な知識や教養、更には国籍問わず社会背景、文化が異なる人々とのコミュニケーション能力を持つことが求められます。	説明動画	

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
異文化接触とコミュニケーション	古本 裕美	現在、長崎大学には約 500 名の外国人留学生がいる。長崎や日本に観光に来る外国人、日本で暮らす外国人の数は年々増加しており、我々が街で外国人に会う機会も今後ますます増えることだろう。この科目では、まず、“やさしい日本語”を学び、自分が普段使っている日本語やコミュニケーションの仕方を振り返る。その後、外国人を含め、いろいろな人が共に暮らすために必要なもの・ことについて考える。	日本語 “やさしい” コミュニケーション 社会	
国際協力と国際援助	青木 恒憲	現在の国際援助の枠組みは第二次世界大戦後の復興支援を通じて形成され、日本の開発途上国への協力も国際情勢の影響を受けてきた。そして、国際社会が政治、経済、文化の面でますますグローバル化する中、現在は先進国、途上国、加えて官民間問わず地球規模での国際協力のあり方が問われている。この科目では日本の政府開発援助（ODA）を中心とした開発協力の役割と現状を理解した上で今後の国際援助の方向性を考察する。	国際協力 開発援助 政府開発援助（ODA） JICA 民間連携 市民参加	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	国際・地域社会	取り扱う内容	取り扱う内容
異文化接触とコミュニケーション	○	○			○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
国際協力と国際援助	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎
◎（特に重視）の数	0	0	0	1	1	0	2	2	2	2	1	1
○（重視）の数	2	2	1	0	1	2	0	0	0	0	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B13 暮らしの中の科学		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・環境科学部		
テーマ責任者	桃木 悟	責任部局	工学部
趣 旨	<p>日々の暮らしの中で使っているコンピュータや機械、電子機器には、様々な物理的、化学的な現象を巧みに応用されたものが多くあります。ひとつひとつの製品は、先人達の多くの知恵と努力が詰まっているにも関わらず、私たちは何気なしに使っています。もし、その製品に詰まった工夫や仕組みを知っていれば、より効率的に正しく使うことができます。さらには、皆さんがこれから研究を行う時に、正しい理解の上でコンピュータや実験装置を使うことができるでしょう。</p> <p>本テーマでは、暮らしの中の物理および化学について、基本的な法則から応用例まで紹介します。高校において修得しておくべき数理科学と自然科学の内容を、大学での教育の視点から多面的に意味づけ、さらに再整理した上で、科学的な思考法と方法論の基礎を学びます。身の回りの社会や先端科学技術と数理・自然科学との関わりを理解することを目的および教育目標とします。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性		説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	学生の皆さんが修得した数学、物理および化学の知識を、身の回りにおけるコンピュータ、構造物、エンジン、光学電子機器、化学製品などと結びつけることができるようになります。身の回りの“なぜ？”を感じたことのある学生の皆さん、この機会に知識を整理してみませんか？		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
暮らしの中の化学	鎌田 海 瓜田 幸機	私たちの日常生活を便利にする多くの機器や装置は、化学物質とりわけ固体の組成や構造を精密設計して有益な性質や機能を生み出し、動作原理として活用していることを理解する。	物質の結晶構造、化学組成と機能、エネルギーデバイス、電気化学デバイス	
暮らしの中の物理	桃木 悟 矢澤 孝哲 才本 明秀	力、エネルギー、熱、流体、光などに関する基本法則を学び、それらを利用した身の回りのものの構造と動作原理を理解する。	熱とエネルギー、流体とエネルギー、光学と電子機器、相対性理論	

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力 やり取り	国際的・地域社会の関心	取 り 扱 う 内 容 を	取 り 扱 う 内 容 を
暮らしの中の化学	◎	○	◎	◎	◎	○	○	◎	◎			○
暮らしの中の物理	◎	○	○	◎	○		○		◎	○	○	
◎ (特に重視) の数	2	0	1	2	1	0	0	1	2	0	0	0
○ (重視) の数	0	2	1	0	1	1	2	0	0	1	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B14 身の回りの工学		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・環境科学部		
テーマ責任者	兵頭 健生	責任部局	工学部
趣 旨	身の回りの自然や人間が作り出してきた物質を正しく理解することは、現代社会の中で生きる私たちにとってとても重要です。自然の複雑さや単純さに気付いて、その美しさに感動を覚えた経験はありませんか？自然界の原理や法則を巧みに利用することで、人類はこれまでに様々な物質や仕組みを作り上げてきました。先人たちの英知と努力により、私たちはとても便利な社会で快適に暮らしています。しかし、身の回りにある様々な製品や身の回りで起こる出来事を、あまりにも理解できていないのではないでしょうか。 本テーマでは、自然科学や工学といった少し難しい学問をできるだけ分かりやすく講義しながら、身の回りで起こる出来事や身の回りの製品を正しく理解し、その本質を見抜く力を養います。「電気やエレクトロニクスの基礎と応用」「身の回りの物質の種類や性質、各種製品への応用」について特に注目し、これらの視点から「豊かで幸せな社会を築く方法」を自分自身で模索できるようになることを目標としています。		
プラネタリーヘルスとの関連性	電気・磁気・材料工学や化学における基礎的な考え方を通じて、エネルギー・資源、環境、生活・情報家電、運輸交通、医療など様々な分野での最新技術が「どのようにプラネタリーヘルスを改善するか？」について学びます。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	物質の性質・電気の法則やそれらの応用に興味のある方を歓迎します。このモジュールを受講すれば、「電気・磁気が日常生活にどのように貢献しているのか」「身の回りにある様々な物質にはどのような性質や機能があるのか」を具体的に理解できるようになりますし、私たちが日常使っている様々な家電製品やエレクトロニクスに、「電気・磁気」や「物質」がどのように応用されているかを知ることができます。これらの知識は、皆さんの専門分野の勉強にはもちろんのこと、日頃の生活にも役立つことでしょう。皆さんと、本テーマを通じて一緒に学べることを楽しみにしています。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
電気の物理とその応用	柳井 武志	電気・磁気に関する事案を学び、私たちの生活を支えている電気・磁気に関する技術を学びます。さらに、演習を通じて、それらの理解を深めます。	電気回路、電磁気 エレクトロニクス	○
身の回りの物質	兵頭 健生	私たちの生活を豊かにしている身の回りの物質（材料）を分類し、それらの基本的性質・機能を学びます。さらに、材料開発が最先端デバイスの性能向上にどのように役立っているかを考えながら、その重要性を学びます。	物質・材料（医療・ヘルスケア、環境、IT、エネルギー、半導体、センシング）	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力	やり取り	国際・地域社会	取 り 扱 う 内 容 を
電気の物理とその応用	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○
身の回りの物質	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	◎	○	○
◎（特に重視）の数	2	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0
○（重視）の数	0	2	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B15 環境をめぐる諸問題		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部		
テーマ責任者	長江 真樹	責任部局	環境科学部
趣 旨	これからの社会の長期的将来像を考える時、環境問題からの視点が必要不可欠です。本モジュールでは、人類が直面するいくつかの環境問題を理解し、様々な視点や立場からその解決策について探ることのできる素養および思考力を養うことを目的・教育目標とします。		
プラネタリーヘルスとの関連性	本テーマは、地球温暖化および水環境汚染・浄化という、プラネタリーヘルスに直接的に関連する2つの内容から成っています。		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>巨大な地球ですが、化石燃料の大量消費や化学物質の放出、乱獲や森林破壊など、“持続”という視点から見ると、取り返しのつかない領域に踏み込んでいます。皆さんが今後、社会の一員として数年先(就職や進路)、数十年先(家族のこと、将来の生活)、百年先(子孫の生活、国家の存続)を考えると、環境の視点からの予測も必要不可欠な時代となりました。このモジュールでは、環境問題の中から、地球温暖化と水環境について、主に科学的視点から学び、見識を広めます。本モジュールでは、講義は知識の押しつけ型ではなく、講義レベルを平易にし、学生の皆さんには自ら考える機会、そしてそれを文章にする機会、さらに人に伝える機会を増やそうと考えています。</p>		
	説明動画		

科目名	担当者名	概要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
地球温暖化を考える	和達 容子 河本 和明 高尾 雄二	温室効果に伴う気象および気候の変化を学ぶ。また、関連する国際条約の成立過程や内容について学び、国家間の立場の違いや国際社会への影響について考える。さらに、化石燃料の燃焼に伴い発生する大気汚染やエネルギー問題の現状を学ぶ。これらによって、地球温暖化の防止が技術的かつ国際的に複雑な問題であることを理解し、改善のための手法を提案し、予想される困難を考える。	温室効果、地球温暖化、化石燃料、炭素貯留、国際交渉	○
水環境を考える	長江 真樹 仲山 英樹	上水と下水に関連した種々の水処理技術について学ぶ。また、水に関連した種々の環境問題の現状を理解する。また、植物などを使った水質浄化の実例を学ぶとともに、人の生活が水辺の生き物に与える影響についても学ぶ。そして、水を中心に人を含めてさまざまな生き物が多様で密接な関わりを持つことを考える。	上水、下水、水処理技術、水質汚染評価、水辺の動植物	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	国際・地域社会への関心	取人文科学の内容を	取り扱う科学の内容を
地球温暖化を考える	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○	◎	◎	◎
水環境を考える	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○
◎(特に重視)の数	1	1	0	1	1	0	1	0	0	2	1	1
○(重視)の数	1	1	1	1	0	2	1	2	2	0	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

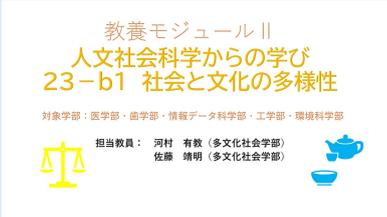
カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	23-B16 海洋の生物多様性と生態系サービス		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	八木 光晴	責任部局	水産学部
趣 旨	海洋は生物、鉱物、エネルギーなどの様々な資源の宝庫ですが、環境共生型の社会を実現するためには、これらの貴重な資源を有効に利用し、持続的に維持していく必要があります。本モジュールでは海洋生物の形態・行動・多様性、および海洋環境と生態系との関連などを理解するために必要な基礎知識を習得します。このように、海洋と海洋生物の科学について多面的に学習することにより、幅広い教養と共に、環境と調和した持続可能な社会を実現するためには何をすべきかを考える能力を身につけます。		
プラネタリーヘルスとの関連性	海とそこに暮らす生物について学ぶことにより、海の世界や資源をまもるために何をすべきかを考えるための知識を身につけます。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	海と海の生物に深い関心があり、主体的な学習意欲を持つ方を歓迎します。授業内容をよく理解するためには、高校卒業程度の理科に関する知識を持っていることが好ましい。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
海とは何か？～海洋生態系の現状と課題～	滝川 哲太郎 武田 重信 和田 実	海が存在と地球環境や人間生活との関わり、および、近年の複合的な環境変化が、海洋生態系に与える影響について、その現状と課題、我々が出来ることを共に考えていきます。	海洋環境・海洋資源・海洋生態系・海洋リテラシー	○
海の生物と多様性	八木 光晴 小山 喬 竹垣 毅	海洋生物（遺伝子資源も含む）の個体、個体群、群集、生態系において起こる様々な生命現象や、海洋生物資源の生産・培養技術の基礎について、幅広い視点から講義します。	生態系・生物多様性・魚類・進化・遺伝子・サイズ学	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会への関心	取人文科学の内容を扱う	取社会科学の内容を扱う
海とは何か？～海洋生態系の現状と課題～	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
海の生物と多様性	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○
◎（特に重視）の数	2	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
○（重視）の数	0	1	2	2	2	1	1	1	2	2	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b1 社会と文化の多様性		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	河村 有教	責任部局	多文化社会学部
趣 旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本（と日本人）」を知ることをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、歴史、文化、社会、法（法律）、交流などの視点から日本と世界を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にもなっている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	地球の健康を考えるためには、人権の保障も一つのキーワードです。どのようなルール(法)が必要かということも重要になります。また、生態系と人間の営みをつなげて考える「生物文化多様性」は、プラネタリーヘルスの中心的な概念の一つです。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「世界を知り、日本を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけてください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
法と人権の多様性	河村 有教	法とは何か、人権とは何か、各国の法や人権の違いについて学習する。この科目では、日本法や日本の裁判例（とりわけ刑事法や刑事裁判例）を切り口として、諸外国における「法」の多様性、「人権」の多様性、法解釈の多様性について、また、諸外国や国際社会からみた「法」や「人権」についての日本の特徴について学習する。	法と人権、法学、刑事法、ヨーロッパ近代法、日本法、国際法、法のグローバル化	○
生物と文化の多様性	佐藤 靖明	生物多様性との関係から、人類の文化を理解する視点を身につける。世界のさまざまな言語、生業、生活技術、知識は、地域の動植物と関わることで形づくられてきた側面をもつ。このことについて、人類学、社会学、生物学といった分野からの知見を学んでいく。そのうえで、「生物文化多様性」という複合概念を理解することで、私たちの文化や社会のあり方を考えていく。	生物文化多様性、生き物文化、ドメスティケーション、里山、暮らし、在来知	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	へ国際の関心・地域社会	取人リ扱文学の内容を	取り扱文学の内容を
法と人権の多様性	◎			◎	○	○	◎		○	○		◎
生物と文化の多様性	◎				○		◎			○	◎	○
◎（特に重視）の数	2	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	1
○（重視）の数	0	0	0	0	2	1	0	0	1	2	0	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b2 変わり行く社会を生きる2		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	西田 治	責任部局	教育学部
趣 旨	社会の変化は、これまで私たちが経験したことの無い速さで、かつ大規模に進んでいます。本モジュールでは、私たちの身近に起こっている社会の変化を、芸術活動、音楽という2つの視点から紐解いていきます。そして、変化する社会の中でいかに生きるか、また将来目指すべき社会の姿やよりよく生きる自分の姿について考えます。		
プラネタリーヘルスとの関連性	本モジュールは芸術分野において、社会に関与し他者とのかかわり合いをよりよいものにしていくことについて考えることを中心的な課題としています。現代アートの作品の中には、社会の様々な課題に対して問題意識を持ち、直接的に影響する行為自体を作品とする考え方があります。そのようなソーシャリー・エンゲイジド・アートの考え方を学び、その方法について考えることで、社会課題の解決に貢献しようとする意識を獲得することを目指します。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	今の社会、ひいては将来の社会の姿を作っているのは、私たち一人ひとりです。しかしその私たち一人一人は異なる意識や視点、経験を持っています。そうした“個”を意識するとともに、社会という“集団”の中で対応する力をつけるべく、本モジュールでは、私たちが生きる社会の変化について学び、これからの社会の在り方について考える機会にしましょう。		

科目名	担当者名	概要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
音楽と社会	西田 治	音・音楽と人間の関わりがどうであるかについて、参与型音楽、サウンドスケープ、ヨガの4つの視点を切り口として考察してく。体験的な内容を含むが、受講者の音楽の得意・不得意は全く問わない。	音楽、サウンドスケープ、ヨガ、持続可能な社会	
芸術活動と社会	北村 史	現代アートシーンにおいて、地域社会・文化を踏まえ、人々を巻き込む形で実施されるアート・プロジェクトが近年盛んである。それらについて実例を読み解きながら芸術と社会とのつながりを考察する。また、長崎の地域性、歴史、文化を反映したアート・ワークショップのアイデアを受講者と共に考え、つくっていく。	ソーシャリー・エンゲイジド・アート、アート・プロジェクト、ワークショップ	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	へ国際・地域社会	取入文科学の内容を	取り会科学の内容を
音楽と社会		◎			◎			◎	◎	◎	○	○
芸術活動と社会		◎			○	◎		○	◎	◎	◎	
◎（特に重視）の数	0	2	0	0	1	1	0	1	2	2	1	0
○（重視）の数	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

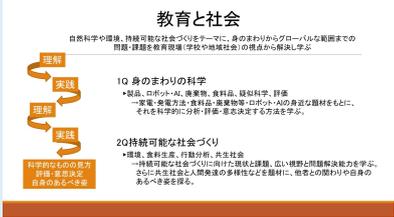
カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b3 文化と自然		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	大平 晃久	責任部局	教育学部
趣 旨	21世紀のグローバル社会を生きる人々は、多様な文化に触れる機会が多くなります。本モジュールでは、「言語」と「数」というもっとも基本的な領域から、人間と社会を考察します。		
プラネタリーヘルスとの関連性	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p>特定の知識や観点に偏らず、ものごとに対する広範な知識と、それを考察するための批判的・論理的な思考法を身につけ、現代を生きる教養人をめざしてください。</p> </div> <div style="flex: 0.5; text-align: center; background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px;">説明動画</div> <div style="flex: 1;">  </div> </div>		
学生の皆さんのメッセージ			

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
日本語と社会	前田 桂子 大平 晃久	前半では、現代において進みつつある文法変化や意味変化、方言と共通語など日本語の諸問題について取り上げ、考察する。また後半では、言語と空間・地域にかかわるさまざまな問題を考察する。	現代語、文法、流行語、方言、地名、環境認知、多文化化	
数と自然	未定	ものごとを論理的に考察・推論するための数理的な手法を学ぶ。	数学、論証	

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	国際的・地域社会	取人文学の内容を	取り扱う内容を
日本語と社会	○	○	◎	○	◎		○	◎		◎	◎	◎
数と自然	◎	◎	○	◎	◎		○		○			
◎（特に重視）の数	1	1	1	1	2	0	0	1	0	1	1	1
○（重視）の数	1	1	1	1	0	0	2	0	1	0	0	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b4 教育と社会		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	鎌田 英一郎	責任部局	教育学部
趣 旨	今までもそしてこれからも、みなさんは「教育」と何らかの形で関わりを持っています。しかしながら、「教育」とはそもそも何なのか、わたしたちはどのような仕組みの中で教育を受けているのか、考えたことがあるという人は少ないのではないのでしょうか。また目まぐるしく変化する「社会」の中で私たちはどのようにその変化に対応し、持続可能な社会をつくる一員として過ごしていかなければならないのでしょうか。モジュール「教育と社会」では、自然科学や環境、持続可能な社会づくりをテーマに、身のまわりからグローバルな範囲までの問題・課題を教育現場（学校や地域社会）の視点から解決し学んでゆきます。		
プラネタリーヘルスとの関連性	持続可能性、グローバル・ローカル、身のまわりのものについての科学的な見方・考え方の獲得	説明動画	 <p>教育と社会</p> <p>自然科学や環境、持続可能な社会づくり、身のまわりからグローバルな範囲までの問題・課題を教育現場（学校や地域社会）の視点から解決し学ぶ</p> <p>1Q 身のまわりの科学</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品、ロケット・車、医薬品、化粧品、材料科学、IT 一審問・検査方法、産科品・廃棄物等、ロケット・車の高度な題材をもとに、自然科学の分析・評価・意志決定する方法を学ぶ。 <p>2Q 持続可能な社会づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境、食料生産、行動分析、共生社会 持続可能な社会づくりに向けた現状と課題、広い視野と問題解決能力を学ぶ。さらに共生社会と人間発達の多様性など基盤に、他者との関わりや自身のあるべき姿を探る。
学生の皆さんへのメッセージ	教員免許の取得を考えている方を主とし、その他広く「教育」に関心のある方も選択可能です。高等学校までの教科の枠組みや理系・文系に制限されない内容で構成しています。教育そのものや、諸分野と教育との関わりについて深く考えたり、他の学生たちと議論を交わしたりしてみたいという方は選択してください。グループディスカッションや調査結果の発表など、考えを交流する機会があります。ある事象について多角的に、また多面的に考えるためにも皆さんの積極的な関りを期待しています。		

科目名	担当者名	概要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
身のまわりの科学	武藤 浩一 藤本 登 及川 大地	ひとは生きていくために毎日多くの食品・製品（資源）やサービスを消費するが、持続可能な社会の構築のためには、その食品・製品や制度について、環境性・安全性等の視点から評価・活用できる能力が求められる。ここでは、食品・家電・発電方法・廃棄物等の身近な題材をもとに、それを科学的に分析・評価・意志決定する方法を学ぶ。	製品（地域）資源 廃棄物 食品 疑似科学 評価	○
持続可能な社会づくり	鎌田 英一郎 石川 衣紀 高橋 甲介 宮津 寿美香	ここでは、食料生産や環境といった身近な事象を取り上げ、持続可能な社会づくりに向けた現状と課題、広い視野と問題解決能力を学ぶ。さらに共生社会と乳幼児期からの人間発達の多様性などを題材に、他者との関わりや自身のあるべき姿を探る。	食料生産 環境 行動分析学 共生社会 多様性の尊重 発達	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考える力やり取り	⑩ へ国際・関心・地域社会	A	B
身のまわりの科学	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎
持続可能な社会づくり	◎	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎	○	◎
◎（特に重視）の数	2	1	2	1	1	0	1	0	1	1	0	2
○（重視）の数	0	1	0	1	1	2	1	2	1	1	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b5 現代経済と企業活動c		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	小野 哲	責任部局	経済学部
趣 旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的とする。本モジュールの履修により、経済学や経営学の基本的分野の学習をすることが可能となる。		
プラネタリーヘルスとの関連性		説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心を持ち、これらの分野の基礎知識の習得意欲を持つ者、自発的・積極的に学習を進めていく姿勢のある者の受講を希望する。また、新聞やネットに掲載される日々の経済や経営に関するニュースに耳を傾ける努力を怠らなないようにしなければならない。		

科目名	担当者名	概要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
経営情報と会計情報	小野 哲	現実のビジネスにおいて会計の知識は不可欠である。この授業では、まず財務3表の基本的な内容を理解することを出発点とする。つぎに経営指標などの知識を習得し、実際の企業のデータを用いてベーシックな分析を行うことで、どのようにして企業の経営内容を診断するかについて学ぶ。	財務3表 経営指標 財務諸表分析	
ゲーム理論入門	吉沢 裕典	経済学のみならず、経営学、政治学、社会学、法学といった社会科学全般や心理学、哲学、倫理学といった人文科学、生物学、物理学、計算機科学、工学といった自然科学でも研究され応用されているゲーム理論の基本的な考え方を学ぶ。	ゲーム理論 静学ゲーム 動学ゲーム	

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるをやり取り	国際・地域社会	取入り扱う科学の内容を	取り扱う科学の内容を
経営情報と会計情報	◎	○	◎	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	◎
ゲーム理論入門	◎	○	○	◎	○				○		○	◎
◎ (特に重視) の数	2	0	1	2	0	0	0	1	1	0	0	2
○ (重視) の数	0	2	1	0	2	1	1	0	1	1	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b6 現代経済と企業活動d		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	南森 茂太	責任部局	経済学部
趣 旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷、国や地域間の比較など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的とする。本モジュールの履修により、経済学の体系に沿って統一的に学ぶことが可能となる。		
プラネタリーヘルスとの関連性	「プラネタリーヘルス」、およびこれに類似する思想を実現するために、各経済主体は各時代においてどのような取り組みを重ねてきたのかを考える。	説明動画	
学生の皆さんのメッセージ	前提知識はとくに問わない。経済や企業について広く関心を持ち、先人や他者から謙虚に学び、自主的に学習を進める意欲をもった学生の受講を希望する。また、日々の新聞やニュースを見たり読んだりすることが、社会現象の観察眼・批判的思考力を向上させる機会となることを念頭に受講しなければならない。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
企業経営の仕組み	辺見 英貴	本科目では、企業の形態や機能を理解することや、企業を取りまく環境や地域との関わりのなかでダイナミックに企業を捉えながら理解する。	企業組織の構造 日本の経営 社会的責任	○
国際社会と日本経済	南森 茂太	近世、そして近代において日本人が国際社会の中の日本をどのように位置づけようとしてきたのかを理解する。	市場経済 経済思想	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力 やり取り	国際・地域社会 の関心	取 り 扱 う 内 容 を	取 り 扱 う 内 容 を
企業経営の仕組み	◎	◎	○	○	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎
国際社会と日本経済	◎	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
◎（特に重視）の数	2	1	0	1	2	0	2	1	2	2	2	2
○（重視）の数	0	1	2	1	0	2	0	1	0	0	0	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b7 日本文化史と現代の核問題（英語開講）		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	中村 桂子	責任部局	グローバル連携機構
趣 旨	<p>私たちの住む長崎は、日本と西洋の交流の窓口として非常にユニークな歴史を誇っています。なかでも北ヨーロッパの中心国の一つとして栄えてきたオランダとの交流は江戸初期から現在まで400年以上にわたって続き、日本文化の発展にさまざまな影響を与えてきました。また、長崎は世界で2番目の原爆の惨禍を経験した地でもあります。核の非人道性を知る被爆地からの訴えは、核兵器禁止と廃絶に向けた国際規範の形成において重要な役割を果たしてきました。このモジュールでは、ローカルとグローバルの視点を繋ぎながら、日本と世界が向き合うさまざまな課題について考えを深めていきます。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	核兵器の使用は地球環境に壊滅的な被害をもたらすものであり、プラネタリーヘルスと密接に関係しています。本科目では、プラネタリーヘルスの推進における長崎の役割についても考えていきます。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	<p>長崎大学ならではの特色を活かした、まさにオンラインの科目となります。国際経験豊かな講師陣とともに、楽しくディスカッションしていきましょう。英語に自信のある人もちょっと尻込みしてしまう人も、コミュニケーション力を鍛える場として最適です。</p> <p>※このテーマの科目は、すべて英語で授業が実施されます。テーマ決定後は、テーマを変更することはできません。</p>		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
Toward a Nuclear Weapon-Free World	中村 桂子	核兵器をめぐる世界の動きや日本の立ち位置を俯瞰的にとらえるとともに、私たち一人ひとりと核兵器問題との繋がりを考えていきます。	核軍縮、核不拡散、市民社会、平和・軍縮教育	○
Introduction to Japanese Culture and History	山下 龍	この講義では、日本の文化や社会を理解するために不可欠な明治末期までの歴史的な知識を楽しく学ぶことができます。	日本史・日本文化史・日本文化	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	へ国の際・地域社会	取人り文扱科う学の内容を	取り社会扱科う学の内容を
Toward a Nuclear Weapon-Free World	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	○	◎
Introduction to Japanese Culture and History	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	○
◎（特に重視）の数	1	2	2	2	0	0	1	0	2	2	1	1
○（重視）の数	1	0	0	0	2	2	1	2	0	0	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

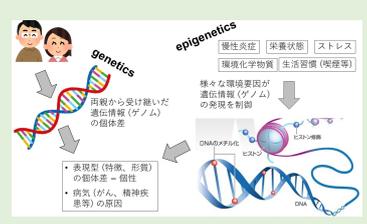
カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b8 コミュニケーションに重要な感覚器を学ぶ		
対象学部	医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	熊井 良彦	責任部局	医学部医学科
趣 旨	<p>ヒトを含む生体は生きていく上で、様々な刺激を受けとりそれに対して反応する。古代アリストテレスはヒトが外界を感知する感覚機能を5つに分類した。すなわち視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の五感である。現在ではヒトの感覚はもっとあり、細かく分類すると20以上あると考えられているが、これらの五感コミュニケーションにとって非常に重要であり、ヒトの生活の質（QOL）を決める重要な要素である。本テーマでは五感の仕組みや疾患との関連性、どのような障がいを受ける危険性があるか、また障がいを受けた場合どのようなハンディキャップを生じるかを考えていく。障がいから回復するような治療が行われ成果をあげているが、一方で、障がいが残る場合も多い。人間の叡智はハンディキャップを様々な方法で乗り越えてきたが、その過程・方法を一緒に考えていきたい。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	感覚器の形態や機能から生物の多様性についての洞察を深める。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	<p>ヒトのからだは驚くべき精密さでいろいろなものを感知し、反応していきます。みなさんと一緒にヒトの感覚について学び、その障がいとどのようにそのハンディキャップを補うか考えていきましょう。この思考過程はあらゆる問題解決に共通していきます。</p>		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
「視覚の科学」を学ぶ	大石 明生 北岡 隆 築城 英典 上松 聖典 井上 大輔 草野 真央 原田 史織 宮城 清弦	カンブリア紀に眼を持つ生物が爆発的に増え、多様性を持ってきた。本授業では生物の視覚器の発生からはじまり高度に発達した眼までの構造と機能をみていく。また視覚を脅かす病気やケガ、そしてそのために生じる「障がい」を概説する。さらに障害で生じたハンディキャップを補う方法を自ら考えてもらう。	眼の発生 眼の構造と機能 眼の障がい ロービジョンケア	○
重要な耳鼻咽喉科学(聴覚・嗅覚・味覚)を学ぶ	熊井 良彦 西 秀昭 木原 千春 佐藤 智生	耳鼻咽喉・頭頸部領域は、聴覚・嗅覚・味覚・平衡覚に関わる感覚器や、摂食・嚥下、また人間が人間らしく生きる上で重要な音声・言語といった機能をつかさどる臓器を含んでいる。この領域の疾病や外傷によりこれらの機能は障がいされるが、それに対する対応や機能回復の過程につき概説し、その障がいのもつ社会的問題点につき考えてもらう。	聴覚、嗅覚、味覚、平衡覚、摂食、嚥下、音声、言語、頭頸部外科、機能障害	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	へ国際の関心・地域社会	取人文科学の内容を扱う	取社会科学の内容を扱う
「視覚の科学」を学ぶ	◎	○	○		○	○	◎		◎	○	○	○
重要な耳鼻咽喉科学(聴覚・嗅覚・味覚)を学ぶ	◎	○	○		○	○	◎	◎	○	○		
◎ (特に重視) の数	2	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0
○ (重視) の数	0	2	2	0	2	2	0	0	1	2	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b9 ジェネティックス?エピジェネティックス??それって何?		
対象学部	医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	森内 浩幸	責任部局	医学部医学科
趣 旨	ゲノムDNAに記録されている遺伝情報を基にして、私たちの身体が作られ機能していく。その仕組みを研究する学問が遺伝学（ジェネティックス）である。でも同じ遺伝情報であるにもかかわらず、私たちの身体の作りや働きが異なってくることもある。遺伝情報の変化を伴わないのに、受け継がれていく特徴を研究する学問がエピジェネティックスである。私たち一人一人の個性を作り、また病気にも関係する仕組みをジェネティックスとエピジェネティックスの両面から考えて行きたい。		
プラネタリーヘルスとの関連性			
学生の皆さんへのメッセージ	ジェネティックス?エピジェネティックス??既に学生の皆さんの頭の中にはたくさんの「?」マークが浮かんでいるかも知れません。私たちヒトと他の生物との違いを作り、私たちヒト同士の個性を作り、そしてそれが世代から世代へと受け継がれるのは、ゲノムの遺伝情報の違い・変化に依ります（それを調べる学問がジェネティックス）。さらに遺伝情報には変化が起こっていないのに、私たちの身体の作りや機能に新たな変化が生じ、それが受け継がれることもあります（それを調べる学問がエピジェネティックス）。そしてそういう変化が病気の原因にもなるのです。この科目では総論的な概念と、各論的な病気の話をご紹介します。	説明動画	

科 目 名	担 当 者 名	概 要	キ ー ワ ー ド	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
ジェネティックスとエピジェネティックスと私達の健康	森内 浩幸 伊達木 澄人 今村 明 古里 文吾 下崎 康治	遺伝情報そのもの、または遺伝情報の発現のコントロールの違いや変化がもたらす病気の具体的な例を挙げて、私たちの健康に及ぼす影響を理解する。	インプリンティング関連疾患、発がん、精神疾患、プリオン、一卵性双生児	
ジェネティックスとエピジェネティックスの違い	吉浦 孝一郎 木住野 達也 伊達木 澄人 池田 裕明	ゲノムの遺伝情報の違いや変化が人の個性を作り、それが次の世代に受け継がれること、そして遺伝情報の変化が起こっていないのに違いが生じ、しかもそれが受け継がれる仕組みと意義を学ぶ。	ゲノム、遺伝情報、エピジェネティックス、環境因子	

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	国際・地域社会への関心	取人文科学の内容を	取り扱う内容を
ジェネティックスとエピジェネティックスと私達の健康	◎		○	○		◎	◎		○		○	◎
ジェネティックスとエピジェネティックスの違い	○		○	◎		◎	◎		○		○	◎
◎（特に重視）の数	1	0	0	1	0	2	2	0	0	0	0	2
○（重視）の数	1	0	2	1	0	0	0	0	2	0	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b10 青壮年期における健康課題		
対象学部	医学部医学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	永橋 美幸	責任部局	医学部保健学科
趣 旨	健康とは単に病気がないという状態ではなく、身体的・心理的・社会的・霊的に安寧な状態をいう。また健康課題を考えると病気や障害があってもその人がその人らしく生きられ、社会全体が共に生きる（共生）という視点が重要である。 そのためモジュールⅡではモジュールⅠを基礎として、ライフサイクルの中でも特に青壮年期における基本的な健康課題と健康増進さらに結婚、妊娠、出産、育児を含めたリプロダクティブヘルスに関する健康課題について教授する。		
プラネタリーヘルスとの関連性	次世代に向けて、リプロダクティブヘルス（性と生殖に関する健康）に関する健康課題からプラネタリーヘルス（地球の健康）を考える。 次世代、リプロダクティブヘルス、プレコンセプション、性感染症、避妊、SDGs	説明動画	<p style="font-size: small;">青壮年期における健康課題</p> <p style="font-size: x-small;">健康課題と健康増進</p> <p style="font-size: x-small;">リプロダクティブヘルス入門</p> <p style="font-size: x-small;">青壮年期では学業や育児や仕事に社会における重要な役割となり、また自分の目標や目的にもなります。それを果たすためには身体的、精神的に健康である必要があります。本科目では、健康に学業や仕事、育児に取り組むための知識を学びます。</p>
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識は特に問いませんが、自身の健康増進や結婚、妊娠、出産、育児を含めたリプロダクティブヘルスに関心がある方、ほかの人と協働して学習を進めていくことに関心がある方を歓迎します。特に本カテゴリーでは、教室内における参加型学習やフィールドワークを取り入れますので、知識や技術を主体的に学び、今の生活や将来に役立ててほしいと思います。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
健康課題と健康増進	田中 貴子 西 祐樹 古川 美和 富永 ちはる	青年期にある大学生にとっての健康とは何かを学び、健康、体力増進のためのトレーニング、メンタルヘルス、食生活等について学び、自身の健康について考える。	健康、体力、食生活、メンタルヘルス	
リプロダクティブヘルス入門	永橋 美幸 神徳 備子 上野 美穂	結婚、妊娠、出産、育児を含めたリプロダクティブヘルスに関する健康課題について学び、自らの課題として解決方法を考え、自分自身の健康につなげる。	リプロダクティブヘルス、プレコンセプション、結婚、妊娠、出産、育児	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	へ国際の関心・地域社会	取人文学の内容を扱う	取人文学の内容を扱う
健康課題と健康増進	◎	◎	◎		○			○	○		○	○
リプロダクティブヘルス入門	◎	◎	◎				○	○	○	○	○	○
◎（特に重視）の数	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
○（重視）の数	0	0	0	0	1	0	1	2	2	1	2	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b11 口腔健康管理と審美		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	佛坂 斉社	責任部局	歯学部
趣 旨	<p>現代社会は技術と情報化が進歩し、人々に便利で快適な生活提供していますが、一方で、種々の問題を抱えています。現代社会の急激な変化に適応できず、人々は様々なストレスを抱え、それは徐々に大きくなり、知らず知らずのうちに、健康と機能美に悪影響を及ぼしています。そこで、安全な食品、病気の予防や健康などに対応する社会的要望は世界的に高まっています。</p> <p>健康とは、身体と精神が健全であり、それがさらに社会的に調和のとれた状態のことです。また、「美しさ」は、外見だけではなく、心と身体の健康があって初めて成り立つものです。真の意味で美しく健康に生きるためには、食・心・健康・美を総合的に捉えていく必要があります。</p> <p>このような背景を受け、豊かな社会生活を営む上に必要な「食育、口腔予防医学、機能健康美」についての情報を広く提供し、健康増進法を習得するための知識を活用することを教育目標としています。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	多様な生物の食が互いの生物間に関わり、ひいては生態系に及ぼす影響を学ぶ。 キーワード：生物の多様性、生態系	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	「食」「美」「健康」に広い興味や関心のある人、大歓迎です。細胞生物、ストレス、予防医療、審美、老化に関わる基本的知識から専門的知識の習得を目指して、教員たちとコミュニケーションを図りつつ、他の学生さんと協働して学習を進めていきましょう。		

科目名	担当者名	概要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
審美	尾立 哲郎 平 曜輔 右藤 友督 江越 貴文 田上 直美	美とは何か、その歴史、およびその表現についての理解を深め、美に関わる医療を学ぶことによって、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上に役立てる。	美学・審美歯科・ホワイトニング・顔面形態異常	
食の科学	川下 由美子 五月女 さき子 久松 徳子 佛坂 斉社	食べることは生きる事そのものである。「口腔と歯」は生きる事の入り口である。食に関連した人体の構造、機能とその疾患について、また栄養学的、予防医学的な観点から教養を深める。	摂食嚥下機能・栄養・メタボリックシンドローム・予防医学・様々な生物の食	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	国際的・地域社会	取人リ扱う科学の内容を	取り扱う科学の内容を
審美	◎	◎		○	○	◎	○		○	○	○	○
食の科学	○	○		○		◎	○		◎		◎	○
◎（特に重視）の数	1	1	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0
○（重視）の数	1	1	0	2	1	0	2	0	1	1	1	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

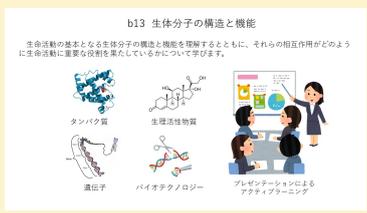
カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b12 口と医療		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	村田 比呂司	責任部局	歯学部
趣 旨	健康で美しく、そして豊かな社会生活を営む上に必要な口腔を中心とした予防医学・先端医療のあり方、美と健康についての情報などを広く提供し、健康の増進を図るために必要な知識を習得することを教育目標としています。科目は2つ設置し、「口と疾患」では齲蝕、歯周病、顎関節障害、咀嚼障害などについて、「口腔から始まる健康」では口腔機能、QOLと口腔の関係、医療現場の課題に対するAIによる解決法、コラーゲン、アンチエイジングなどについて、それぞれアクティブラーニングを含んだ学習を行います。みなさまの健康増進にも役立つ授業です。		
プラネタリーヘルスとの関連性	歯を含めた健全な口腔機能は、全身の健康に貢献します。そしてこの概念と実践は世界の人々のQOLの向上と健康寿命の延伸に寄与します。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	口腔や歯科に関する知識は全く問いません。「口腔と医療」に興味や関心のある方、大歓迎です。口腔を中心とした予防医学・先端医療、健康に関する基礎的知識から専門的知識の習得を目指して、担当の教員たちとコミュニケーションを図りつつ、他の学生さんと協働して学習を進めていくことに関心のある方は、ぜひ受講してください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
口と疾患	鳥巢 哲朗 吉村 篤利 柳口 嘉治郎	顎関節障害、咀嚼障害、齲蝕、歯周病などの口の疾患の原因と症状、治療法、予防法について理解し、口の健康維持について必要な知識を健康増進に活かす。	顎関節障害・咀嚼障害・齲蝕・歯周病	○
口腔から始まる健康	村田 比呂司 山田 志津香 玉田 泰嗣	超高齢社会に対応する義歯による口腔機能の回復、医療現場の課題に対するAIによる解決法等について学ぶ。また、加齢に伴う歯槽骨のコラーゲンの質の変化とその機序を知り、生涯健康な歯や骨を維持するための知識を習得する。	超高齢社会・口腔機能・QOL・AI・コラーゲン・アンチエイジング・長崎県	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	国際的関心・地域社会	取人リ扱うの内容を	取り扱うの内容を
口と疾患	○	◎		○	○		○	○	○		○	○
口腔から始まる健康	○	◎	○	○	○	○		○	○	○	○	○
◎（特に重視）の数	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
○（重視）の数	2	0	1	2	2	1	1	2	2	1	2	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b13 身の回りの科学		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・環境科学部		
テーマ責任者	海野 英昭	責任部局	工学部
趣 旨	<p>私たちの身の回りには、さまざまな“不思議”が存在します。たとえば、“どのようにして物体の破壊は起こるのか?”、“人間の生命とは何か?”など、いろいろなわからないこと、不思議なことが存在します。これらの“不思議”を正しく理解し、さらなる“不思議”の解明のためには、高校までに学んできた数学、物理、化学、生物など 様々な基礎知識をさらに発展させる必要があります。</p> <p>これらの学問を知識としてだけでなく、自分で使える“応用できる知識”に発展させるためにも、さまざまな“不思議”に目を向け、興味を持って接してもらいたいと考えています。</p> <p>本テーマでは、高校までに学んだ数学、物理、化学、生物などの知識を再確認するとともに、大学教育の視点から多面的に意味づけ再整理した上で、科学的な思考法と方法論を学び、身の回りにおける様々な物理現象などと数理・自然科学との関係を理解することを目的および教育目標としています。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	「生体分子の構造と機能」では、プレゼンテーション授業を通して、地球規模での生命と健康に関するトピックにも触れる予定である。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	数学、物理、化学、生命に興味のある方を歓迎します。身の回りの物理、数理、生命などについて、“なぜ”と思ったことが理解できるようになるかもしれません。身の回りの科学を学んでみましょう!		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
生体分子の構造と機能	海野 英昭 澤井 仁美	生命機能の中核をなす 遺伝子やタンパク質、生理活性物質を中心とした生体分子の構造と機能を理解し、生命とは何かを分子生物学の立場から理解する。	遺伝子 タンパク質 生体関連物質 生命と健康	○
構造物の世界	中原 浩之 佐々木 謙二 永井 弘人 原田 哲夫	構造物には様々な形態がある。本講義では、これらの構造物の役割と、役割を果たすための原理を力学的に理解する。	構造物 力学、強度 振動	

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取り	国際・地域社会への関心	取 り 扱 う 内 容 を	取 り 扱 う 内 容 を
生体分子の構造と機能	◎	◎	○	◎	○		○	○	◎	○	○	○
構造物の世界	◎	◎		○	○			◎	○	○		
◎（特に重視）の数	2	2	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0
○（重視）の数	0	0	1	1	2	0	1	1	1	1	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

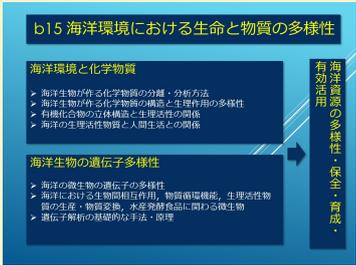
カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b14 人間活動と環境影響		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部		
テーマ責任者	朝倉 宏	責任部局	環境科学部
趣 旨	人間活動に起因する環境の変容は、地球上のありとあらゆる場所で、様々な規模と様態で起こっています。本モジュールでは、多様な環境問題のなかでも土壌、地下水、廃棄物、有害化学物質に着目し、それらをめぐる現状、発生要因、法的・技術的対策について、各種事例を通じて学びます。これにより、近未来における自然と人間の共存共生について具体的なイメージを創りあげることが目的とします。		
プラネタリーヘルスとの関連性	有害化学物質・地下水汚染・土壌汚染・廃棄物などによって「地球の健康」が脅かされている。本講義の目的は、「地球の健康」を支え続けるために有効な「答え（解決策）：廃液管理ととるべき行動・汚染挙動解析・廃棄物の処理とリサイクル技術」を探求し、私たち自身の意識変容、行動変容を促すことである。これらは、プラネタリーヘルスと関連がある。	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	環境は無数のシステムが複雑にかかり合っています。したがって、環境の改善と保全に向けた取り組みは、安易な方法を適用すると、新たな別の問題を引き起こすかも知れません。また多くの場合、そこには人間の利害も絡むため、問題はさらに複雑化します。本モジュールでは、実証的データにもとづいて環境問題を多面的に分析し、総合的に最善の解決法を導き出すための視座と知識を是非身に付けて欲しいと思います。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
有害化学物質の管理と処理	久保 隆 真木 俊英	有害化学物質のマネジメントについて理解するとともに、長崎大学における廃液管理の実際を学び、環境保全に関連してとるべき行動について理解を深める。	有害化学物質のマネジメント、廃液管理	○
廃棄物と土壌・地下水汚染	朝倉 宏 中川 啓 西山 雅也 利部 慎	水資源としての地下水利用、土壌や地下水の基礎、土壌・地下水汚染の現状、汚染の挙動解析法や対策技術などについて学ぶ。また、廃棄物の処理とリサイクルに関する基本的な法制度・計画と、各種処理技術を学び、問題点と理想像、そのギャップを埋める手法・計画などを考える。	水資源、土壌、廃棄物、地下水汚染、土壌汚染、対策技術	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会	取人リ扱うの内容を	取り扱うの内容を
有害化学物質の管理と処理	◎	◎	○	◎	○	○		○	○		○	◎
廃棄物と土壌・地下水汚染	◎	◎		◎	○		○	◎	◎	○	○	○
◎（特に重視）の数	2	2	0	2	0	0	0	1	1	0	0	1
○（重視）の数	0	0	1	0	2	1	1	1	1	1	2	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b15 海洋環境における生命と物質の多様性		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	石橋 郁人	責任部局	水産学部
趣 旨	<p>広大な海洋には、細菌やラン藻などの微生物から、クジラなどの大型哺乳類や大型藻類に至るまでの多種多様な生物が生息しており、これに伴って、これらの生物の遺伝情報を担う遺伝子や海洋生物が生産する化学物質も多種多様です。本テーマでは、「海洋生物の遺伝子多様性」及び「海洋環境と化学物質」の二つの講義を通して、この多様性に富んだ海洋の資源を保全・育成し、有効に活用していく意義について考えます。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性	<p>近年の地球環境の劇的な変化により、海洋生物の多様性や生態系が危機に瀕しています。本テーマでは、海洋の遺伝子資源の多様性と海洋生態系との関連や、海洋生物由来の化学物質の有効活用など、海洋の生物資源の側面からプラネタリーヘルスについて考えます。</p>	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	<p>本テーマでは、海洋生物の「遺伝子」、また海洋生物が作り出すユニークな「化学物質」の多様性を概観し、互いに関連するこれら2つの観点から、多角的に海で生み出される多様性を理解することを目指します。所々に、講義内容に関連した最近のトピックスを織り交ぜます。海洋の生物と生物資源の利用に関心がある方の受講をお待ちしています。</p>		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
海洋生物の遺伝子多様性	和田 実 井上 徹志 山口 健一 小山 喬	海の微生物に焦点をあてて、その遺伝子レベルの多様性を紹介するとともに、海洋における生物間相互作用や物質循環機能、機能性物質の生産や物質変換、共生に関わる微生物などのトピックスを学ぶ。また、遺伝子解析の基礎的な手法とその原理について学び、生命現象の遺伝子レベルでの理解を深める。	微生物、共生、機能性物質、遺伝子解析手法	○
海洋環境と化学物質	高谷 智裕 石橋 郁人 荒川 修	海洋の生物から化学物質を分離する方法、化学物質の構造を解析する方法、微量成分の量や組成を分析する方法などの機器分析化学の基本原則を習得し、さらに、魚介類の毒などの海洋の生理活性物質と人間生活との関係について学ぶ。	海洋の生理活性物質、分離・精製法、構造解析法、長崎県	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力 やり取り	国際・地域社会	取 り 扱 う 内 容 を	取 り 扱 う 内 容 を
海洋生物の遺伝子多様性	◎	◎		◎	○		◎	○	◎			
海洋環境と化学物質	◎	◎		○		○	◎	○	○	◎	○	○
◎（特に重視）の数	2	2	0	1	0	0	2	0	1	1	0	0
○（重視）の数	0	0	0	1	1	1	0	2	1	0	1	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	自然科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	23-b16 海洋生態系の保全と管理		
対象学部	医学部医学科・医学部保健学科・歯学部・情報データ科学部・工学部・環境科学部		
テーマ責任者	阪倉 良孝	責任部局	水産学部
趣 旨	海洋は生物、鉱物などの様々な資源の宝庫ですが、環境共生型の社会を実現するためには、これらの貴重な資源を有効に利用し、持続的に維持していく必要があります。本モジュールでは、海洋生物資源の生産・培養、管理、持続可能で効果的な漁獲や効率的な利用に関する原理や方法、海洋環境の保全・修復、環境保全のための基本法について、現代社会における実課題例を交えながら学びます。このように、海洋と海洋生物の科学について多面的に学習することにより、幅広い教養と共に、環境と調和した持続可能な社会を実現するためには何をすべきかを考える能力を身につけます。		
プラネタリーヘルスとの関連性	持続可能な海の生物資源の利用 海の世界とその保全	説明動画	
学生の皆さんへのメッセージ	海と海の生物に深い関心があり、主体的な学習意欲を持つ方を歓迎します。 授業内容を良く理解するためには、高校卒業程度の理科に関する知識を持っていることが好ましい。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
海洋の生物と科学	阪倉 良孝 征矢野 清	海洋生物（遺伝子資源も含む）の個体、個体群、群集、生態系で起こる様々な生命現象や、海洋生物資源の生産・培養技術について、幅広い視点から講義します。モジュールI「海の生物と多様性」の応用篇とした位置づけです。具体的には長崎県の養殖の事例を交えながら完全養殖を達成するプロセスを見ていきます。	多様性・プランクトン・魚類・繁殖・生態・養殖・長崎県	○
環境関連法とアセスメント	近藤 能子 竹内 清治 竹下 哲史 久保 隆	環境問題に関する考え方、国際環境法や国内の環境基本法の理念について学び、現在の海洋環境問題を捉えていきます。水質汚濁や護岸工事等の公共事業から自然環境を保全・修復していくことを目的とした環境アセスメントの手法やその評価について、また、海洋生態系の劣化を抑制していく技術革新について、考えていきます。	国際環境法・環境基本法・環境アセスメント・養殖の未来技術・海洋環境問題	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力 やり取り	へ国 際 関 心 地 域 社 会	取 人 文 科 学 の 内 容 を	取 り 扱 う 内 容 を
海洋の生物と科学	◎	○			○	○	◎		○	◎		○
環境関連法とアセスメント	◎	◎			◎	○	◎	○	○	◎	◎	◎
◎（特に重視）の数	2	1	0	0	1	0	2	0	0	2	1	1
○（重視）の数	0	1	0	0	1	2	0	1	2	0	0	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目



長崎大学 モジュール・選択科目小委員会

〒852-8521 長崎市文教町1番14号

教養教育事務室

電話：095-819-2078

Email：kyoyo_zen@ml.Nagasaki-u.ac.jp

